

佐賀県文化財調査報告書第74集

佐賀県農業基盤整備事業に係る
文化財調査報告書2

1984年3月

佐賀県教育委員会

佐賀県文化財調査報告書第74集

佐賀県農業基盤整備事業に係る
文化財調査報告書 2

1984年3月

佐賀県教育委員会

はじめに

この調査報告書は佐賀県農業基盤整備事業の施行に先がけて、国庫補助金を得て実施した埋蔵文化財発掘調査報告書であります。

今年度の発掘調査により、旧石器時代から江戸時代に至る多くの遺跡が確認され、遺構や遺物が検出されました。なかでも神埼町志波屋六本松遺跡で検出された縄文時代集落跡と塩田町大黒町遺跡で出土した多量の墨書き土器は特筆すべきものであり、これらは、わが県の古代史を知る上で貴重な資料となるものであります。

ここに発掘調査報告書を刊行し、学術資料として、また重要な文化財を県民の共有財産として大切に保存していくための資料として役立てていただければ幸いです。

この調査にあたって、文化庁、県農林部、各市町村教育委員会、土地改良課、産業課、並びに地元の関係者各位の深いご理解とご協力に対し、心からお礼申し上げます。

昭和59年3月31日

佐賀県教育委員会

教育長 古藤 浩

例 言

1. 本書は国庫補助事業として昭和57年度に発掘調査を実施した佐賀県農業基盤整備事業に伴う文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は、文化財確認調査については佐賀県教育委員会が主体となり、文化財発掘調査については、当該市町村教育委員会および佐賀県教育委員会が主体となり行った。
3. 本書の執筆者はつきのとおりである。

○ I、II、	木下 巧	○ III-2①	福田義彦
○ III-1①、IV-1	藤瀬楨博	○ III-2③、IV-7	川崎吉剛
○ III-1③・2②・3④⑥、IV-2・8	天本洋一	○ III-2④	西村隆司
○ III-1④、IV-1⑤	八尋 実	○ III-3①、IV-10	原田保則・奥 弘幸
○ III-1②⑤・3②⑥・4②、IV-4・6	徳富則久	○ III-3③④、IV-9・11	藤井信幸
○ III-1⑥	蒲原宏行	○ III-4③、IV-12～15	立石泰久
○ III-1⑦、IV-3	久保伸洋	○ III-4①、IV-22～24、V	森田孝志
4. 遺構の実測は、調査員・調査補助員が、遺構の写真撮影は調査員が行なった。
5. 遺物実測・整図・報告書作成作業は、佐賀県文化財資料室・神埼発掘調査事務所でおこなった。
 - 遺物実測……………石井のりこ・山口成子・馬場美奈子
 - 整図……………六田育子・梅野澄子・藤原倫子・武藤直子
 - 遺物写真撮影……………原口定・古賀栄子
6. 本書の作成・編集は、調査担当者および、六田育子・古川万鶴代・神田浩子の協力を得て森田孝志が担当した。

凡 例

1. 遺構番号に用いた分類記号は S B : 住居跡、建物跡、S H : 竪穴住居跡、S K : 貯蔵穴・土壙、S E : 井戸跡、S D 溝跡・溝状遺構、S J : 蔕棺墓、S X : その他の遺構、P : 柱穴・小土壙である。
2. 地図の方位はすべて座標北で、挿図、本文中に用いた方位は磁北である。
3. 挿図中の、■は遺構・遺物包含層を検出した試掘溝、□は、遺構・遺物包含層が検出されなかった試掘溝を表わす。
4. 調査期間は、現場での発掘調査期間である。

目 次

I. 発掘調査に至る経過	1
II. 調査組織	2
III. 昭和57年度確認調査の内容	3
1. 佐賀東部地区の調査	4
①鳥栖市（貝方地区、村田地区）	5
②北茂安町（北茂安東部地区、北茂安西部地区）	5
③三根町（三根東地区）	7
④神埼町（永歌地区）	7
⑤三田川町（乙ノ馬手地区）	7
⑥千代田町（姉地区、下板地区）	7
⑦東脊振村（畠外地区）	8
2. 佐賀西部地区の調査	9
①佐賀市（蓮池地区、嘉瀬地区）	10
②諸富町（諸富地区）	10
③大和町（川上南部第1地区、川上南部第2地区）	10
④多久市（多久東部地区）	11
3. 佐賀南部地区の調査	13
①武雄市（川登地区）	15
②北方町（橋下地区、大崎地区）	15
③白石町（白石西第1地区、白石西第2地区、白石西第4地区）	15
④有明町（牛間田地区、有明第1地区、有明第3地区）	17
⑤塩田町（南志田地区、西山地区、塩吹地区、塩田地区）	17
⑥嬉野町（下宿地区、下野地区）	19
4. 佐賀北部地区の調査	20
①富士町（樋口地区）	21
②相知町（伊岐佐地区）	21
③西有田町（曲川地区、大山地区）	21
IV. 昭和57年度発掘調査の概要	23
佐賀東部地区	24
1. 日岸田遺跡	24
2. 天建寺土居内遺跡	26
3. 大曲遺跡群（東外A遺跡・松ノ内A遺跡・瀬ノ尾A遺跡・大曲柏原A遺跡・瀬ノ尾遺跡）	28
4. 田手一本黒木遺跡	32
5. 志波屋六本松遺跡	34
6. 鮎田西分貝塚	38
佐賀西部地区	42
7. 久池井二本杉遺跡	42
8. 徳富權現堂遺跡	44
9. 織島西分B遺跡	46
佐賀南部地区	48
10. 上滝遺跡群（後田遺跡・大鹿遺跡・森崎遺跡・林副遺跡）	48
11. 馬洗神辺遺跡	52
12. 本志田原遺跡・白久保遺跡	54
13. 大黒町遺跡	56
佐賀北部地区	60
14. 楠木原遺跡	60
15. 坂ノ本遺跡	62
佐賀東部導水路	64
22. 川寄吉原遺跡	64
23. 野田遺跡	66
24. 尾崎土生遺跡	67
V. 総 括	70

挿 図 目 次

第1図 昭和57年度農業基盤整備事業に伴う確認調査地区・発掘調査遺跡位置図	折りこみ
第2図 佐賀東部地区周辺地形図(1)	4
第3図 佐賀東部地区周辺地形図(2)	5
第4図 三根町三根東(天建寺)地区試掘溝配置図	6
第5図 千代田町柿・下板地区試掘溝配置図	折りこみ
第6図 佐賀西部地区周辺地形図	9
第7図 諸富町諸富地区試掘溝配置図	11
第8図 大和町川上南部第1(吉富・今古賀)地区試掘溝配置図	12
第9図 佐賀南部地区周辺地形図(1)	13
第10図 佐賀南部地区周辺地形図(2)	14
第11図 武雄市川登地区試掘溝配置図	14
第12図 北方町大崎地区試掘溝配置図	16
第13図 有明町牛間田地区試掘溝配置図	18
第14図 佐賀北部地区周辺地形図	20
第15図 相知町伊岐佐地区試掘溝配置図	22
第16図 佐賀上場地区周辺地形図	折りこみ
第17図 日岸田遺跡周辺地形図	24
第18図 日岸田遺跡遺構配置図	24
第19図 天建寺遺跡周辺地形図	26
第20図 大曲遺跡群周辺地形図	28
第21図 田手一本黒木遺跡周辺地形図	32
第22図 田手一本黒木遺跡5区遺構配置図	32
第23図 志波屋六本松遺跡周辺地形図	34
第24図 志波屋六本松遺跡遺構配置図	35
第25図 志波屋六本松遺跡出土繩文土器実測図	37
第26図 蛇田西分貝塚周辺地形図	38
第27図 蛇田西分貝塚I区遺構配置図	39
第28図 蛇田西分貝塚I区出土鋸型土製品・鳥形木製品実測図	39
第29図 久池井二本杉遺跡周辺地形図	42
第30図 德富権現堂遺跡周辺地形図	44
第31図 織島西分B遺跡周辺地形図	46
第32図 上滝遺跡群周辺地形図	48
第33図 馬洗神辺遺跡周辺地形図	52
第34図 本志田原遺跡周辺地形図	54
第35図 大黒町遺跡周辺地形図	56
第36図 大黒町遺跡出土円面硯・墨書土器実測図	59

第37図	楠木原遺跡周辺地形図	60
第38図	坂ノ本遺跡周辺地形図	62
第39図	川寄吉原遺跡周辺地形図	64
第40図	野田遺跡周辺地形図	66
第41図	尾崎土生遺跡周辺地形図	67

表 目 次

表1	農業基盤整備事業施工予定地内文化財確認調査一覧表（昭和57年度）	折りこみ
表2	昭和57年度発掘調査遺跡一覧表	折りこみ

図 版 目 次

図版1	①日岸田遺跡調査区全景	②日岸田遺跡住居跡検出状況
図版2	①天建寺遺跡全景	②天建寺遺跡全景
	③S E 001 井戸跡	④S E 002 井戸跡
図版3~5	①東外遺跡全景（南西から）	②東外遺跡 S B 007 住居跡（南東から）
	③東外遺跡 S D 002 溝跡（北から）	④東外遺跡 S D 004 溝跡（北から）
	⑤瀬ノ尾B 遺跡第1地点（西から）	⑥松ノ内A 遺跡第1地点全景（南から）
	⑦瀬ノ尾A 遺跡第1地区全景（南西から）	⑧瀬ノ尾A 遺跡 S B 001 住居跡（東から）
	⑨松ノ内A 遺跡 S P 001 土壙墓	⑩松ノ内A 遺跡 S P 002 土壙墓
	⑪松ノ内A 遺跡 S P 003 石蓋土壙墓	⑫松ノ内A 遺跡 SJ 004 豊棺墓
	⑬松ノ内A 遺跡 S K 005 土壙	⑭大曲柏原A 遺跡第1地点 S B 001 住居跡
図版6	①田手一本黒木遺跡 5区全景	②5区 S B 001 掘立柱建物跡
	③5区 S B 001 掘立柱建物跡柱穴	④5区周溝
	⑤5区土器溜り	⑥5区 S K 002 土壙
	⑦5区 S K 003 土壙	
図版7・8	①志波屋六本松遺跡全景	②S H 001 住居跡
	③S X 004 集石	④S H 006 住居跡
	⑤S H 011 住居跡	⑥S B 002 掘立柱建物跡
図版9・10	①詫田西分貝塚遠景（南から）	②詫田西分貝塚II区全景（西から）
	③I区 S E 002 井戸跡	④I区 S E 002 井戸跡内遺物出土状況
	⑤I区 S K 041 土壙	⑥II区 S K 334 土壙
	⑦II区 S P 359 土壙墓	⑧I区 S E 002 井戸跡出土鐸型土製品
	⑨I区 S E 002 井戸跡出土土器	⑩I区 S K 048 土壙出土土器
	⑪I区 S K 041 土壙出土土器	⑫I区出土卜骨（鹿角製）
	⑬I区 S E 002 井戸跡出土手斧柄	⑭I区 S K 041 土壙出土木戈

- | | | |
|---------|---|---|
| 図版11 | ①久池井二本杉遺跡調査区全景
③久池井二本杉遺跡土壙墓(北から) | ②久池井二本杉遺跡調査区全景(東から) |
| 図版12 | ①徳富権現堂遺跡調査区南側全景(西から)
③S E 001井戸跡
⑤S E 003井戸跡
⑦徳富権現堂遺跡出土土器 | ②徳富権現堂遺跡調査区北側全景(南から)
④S E 002井戸跡
⑥S K 004土壙
⑧徳富権現堂遺跡出土土器 |
| 図版13 | ①織島西分B遺跡全景(南東から)
③S B 019住居跡(南東から)
⑤S D 001溝跡(西から) | ②S B 018住居跡(西から)
④S B 025掘立柱建物跡
⑥S B 020住居跡内土器出土状況(東から) |
| 図版14・15 | ①後田遺跡全景(北から)
③林副遺跡B地点全景
⑤林副遺跡A地点遺物出土状況 | ②森崎遺跡全景
④森崎遺跡1号井戸跡
⑥林副遺跡出土墨書土器 |
| 図版16 | ①馬洗神辺遺跡全景
③S K 006土壙
⑤S P 001土壙墓(南西から) | ②S P 002木棺墓
④S P 015木棺墓(南西から) |
| 図版17 | ①本志田原遺跡全景
③本志田原遺跡2区(東から) | ②本志田原遺跡2区(西から)
④本志田原遺跡3区(東から) |
| 図版18・19 | ①大黒町遺跡1区西側
③2区東側
⑤2区S B 002建物跡
⑦1区S K 001土壙(北から)
⑨出土墨書土器 | ②1区溝状遺構(西から)
④2区西側(西から)
⑥3区S B 003建物跡
⑧出土墨書土器
⑩出土墨書土器 |
| 図版20 | ①楠ノ木原遺跡遠景(西から)
③S K 001土壙(北から) | ②楠ノ木原遺跡2区全景(西から)
④楠ノ木原遺跡S K 001土壙出土磁器皿 |
| 図版21 | ①坂ノ本遺跡遠景
③坂ノ本遺跡1区全景(北東から) | ②坂ノ本遺跡2・3区全景(北西から) |
| 図版22 | ①川寄吉原遺跡調査区全景(東から)
③S K 102土壙 | ②調査区中央部杭列
④中央部包含層出土銅鏡 |
| 図版23 | ①野田遺跡全跡全景(東から) | ②S K 001土壙 |
| 図版24・25 | ①尾崎土生遺跡11区全景(西から)
③S B 023掘立柱建物跡
⑤S D 001遺跡(南から)
⑦S E 014井戸跡 | ②S B 022掘立柱建物跡
④S B 021掘立柱建物跡
⑥S K 018土壙
⑧S E 012井戸跡 |

I. 発掘調査に至る経過

(1) 設計協議

昭和53年4月の県農林部と県教委の「農業基盤整備事業に係る文化財の取扱いに関する確認事項」に従って、工事に先立つ2年前の9月（実質的には前年）に施行計画が農業基盤整備事業担当部局から文化財保護担当部局へ協議がなされる。昭和57年度は、佐賀東部地区（鳥栖市・神埼町・千代田町・東脊振村・三田川町・北茂安町・三根町・諸富町）433ha、佐賀西部地区（佐賀市・多久市・大和町）213ha、佐賀南部地区（武雄市・北方町・大町町・白石町・有明町・塩田町・嬉野町）266ha、佐賀北部地区（伊万里市・西有田町・相知町・北波多村）118ha、佐賀上場地区（唐津市・鎮西町・北波多村）66haの合計1096haである。施行主体は、九州農政局上場水利事業所々管の国営、佐賀県農林部所管の県営、市町村所管の團体営（鳥栖市伊万里市・塩田町・嬉野町など）事業に区分される。また、水資源公団所管の佐賀東部導水路工事に伴う（神埼町・千代田町・佐賀市）協議もなされた。

(2) 確認調査

協議された設計書をもとに検討して、必要な地区へは現地踏査を行い、確認調査の必要な地区と遺跡の所在が認められない地区との区別を行う。ついで遺跡の存在が考えられ、確認調査の必要が認められる市町村の教育委員会と土地改良担当課、当該事業を所管する上場水利事業所、県農林部との第1回目の合同4者協議会を県教育委員会が主催して10月8日に開催した。

その合意を経て文化財確認調査を稻刈りが終了した10月下旬から麦の作付が始まる12月上旬までの間に行なったが、農作物の状況によっては調査時期がずれることもあった。確認調査の方法は原則として、2m×2mの試掘溝を20m間隔に基盤の目状に設定し、文化財の有無、性格広がりなどを調査した。

(3) 開発と文化財保護に係る協議

確認調査結果を検討して各事業施行区内の詳細な遺跡分布図が完成し、約56.8万m²の遺跡分布が確認された。開発と文化財保護の調整を計る第2回目の合同4者協議会を12月4日に開いた。その後、昭和57年3月中旬まで各市町村ごとに県教委が主体となって協議が継続され、3月25日に第3回目の合同4者協議を以て昭和57年度の開発と文化財保護との調整がなされた。この調整で56.8万m²の遺跡のうち50.1万m²は農業基盤整備事業担当部局で、設計変更による盛土保存の処置がとられることになったが、残る67,000m²については発掘調査を実施し記録保存することになった。

本年度、市町村教育委員会が実施した発掘調査は、昨年度に同様な方法で確認調査を実施し、農業基盤整備事業担当部局との協議を経てきたものである。

II. 調査組織

(1) 調査主体

佐賀県教育委員会	三田川町教育委員会	西有田町教育委員会
佐賀市教育委員会	千代田町教育委員会	肥前町教育委員会
唐津市教育委員会	東脊振村教育委員会	玄海町教育委員会
鳥栖市教育委員会	諸富町教育委員会	鎮西町教育委員会
多久市教育委員会	大和町教育委員会	呼子町教育委員会
武雄市教育委員会	三日月町教育委員会	北波多村教育委員会
神埼町教育委員会	白石町教育委員会	
三根町教育委員会	塩田町教育委員会	

(2) 事務局

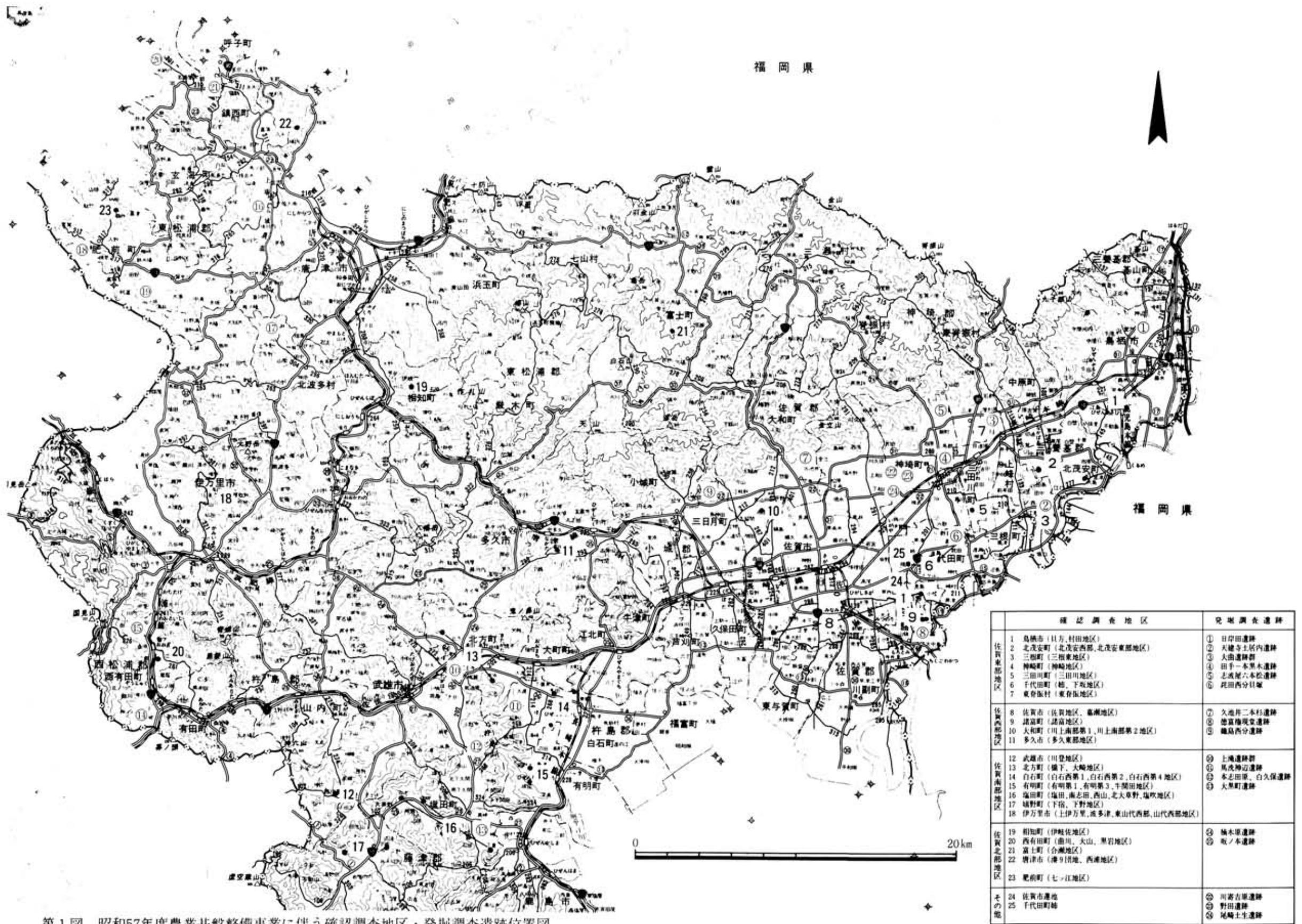
佐賀県教育委員会	
局長 藤山 勲 県文化課課長	庶務会計 中野 安正 県文化課庶務係長
次長 山田 陸三 県文化課課長補佐	山口 勝 県文化課庶務係
次長 高島 忠平 県文化課課長補佐	山下 行夫 県文化課庶務係
	井原 裕子 県文化課庶務係

(3) 調査委員会

委員長 古藤 浩 佐賀県教育長	委員 岡崎 敏 県文化財保護審議委員
委員 大塚 正道 佐賀県教育次長	小田富士雄 県文化財保護審議委員
高橋 一之 佐賀県教育次長	沢村 仁 県文化財保護審議委員
	杉谷 昭 県文化財保護審議委員

(4) 調査員

調査主任 木下 巧 県文化課文化財調査第2係長	調査員 福田 義彦 佐賀市教育委員会
調査員 天本 洋一 県文化課文化財調査第2係	中島 直幸 唐津市教育委員会
立石 泰久 //	藤瀬 権博 鳥栖市教育委員会
藤井 伸幸 //	西村 隆司 多久市教育委員会
徳富 則久 //	盛 峰雄 伊万里市教育委員会
森田 孝志 //	奥 弘幸 武雄市教育委員会
種浦 修 //	原田 保則 //
	川崎 吉剛 大和町教育委員会
	八尋 実 神埼町教育委員会
	緒方裕次郎 //
調査補助員 山口 繁・大坪 正登・六田育子	久保 伸洋 東脊振村教育委員会



第1図 昭和57年度農業基盤整備事業に伴う確認調査地区・発掘調査遺跡位置図

表1 農業基盤整備事業施工予定地内文化財確認調査一覧表（昭和57年度）

地 区	市町村名	工 事 地 区 名	所 在 地	確 認 調 査 面 積	調 査 結 果	備 考
佐賀東部	鳥栖市	貝 方	鳥栖市河内町字貝方	7.4ha	遺構、遺物は検出されなかった。	
	北茂安町	村 田	鳥栖市村田町字二本松	4.5	流れ込みによる遺物が若干出土したのみで、遺構は検出されなかった。	
	三根町	北茂安西部	三養基郡北茂安町大字中津隈	6	遺構、遺物は検出されなかった。	
	神埼町	北茂安東部	三養基郡北茂安町大字江口	7	"	
	三田川町	三 根 東	三養基郡三根町大字天建寺	58	弥生時代、中世の井戸跡・柱穴を検出。	
	千代田町	神埼工区(本堀)	神埼郡神埼町大字	90	溝状の落込みを確認。	
	東脊振村	三田川工区(下藤)	神埼郡三田川町大字箱川	25	遺構、遺物は検出されなかった。	
	千代田町	千代田工区(姉)	神埼郡千代田町大字境原	90	弥生時代～中世の土壤、柱穴、遺物包含層を検出	
		" (下坂)	神埼郡千代田町大字下坂		古代末～中世の土壤、柱穴を検出	
	東脊振村	東脊振工区(畠外)	神埼郡東脊振村大字大曲	6	弥生時代～中世の溝跡、柱穴を検出。縄文早期土器出土	
佐賀西部	諸富町	諸富工区	佐賀郡諸富町大字徳富上大津	60	古墳時代～近世の土壤、井戸跡、溝跡、柱穴を検出	
	佐賀市	佐賀工区(蓮池)	佐賀市蓮池町大字見島	30	遺構、遺物は検出されなかった。	
		嘉 潤	佐賀市嘉瀬町大字十五	42	"	
	大和町	川上南部第1	佐賀郡大和町大字久留間字吉富	11.5	中世の遺構、遺物を検出	
		川上南部第2	佐賀郡大和町大字池ノ上字植田	30	遺構、遺物は検出されなかった。	
	多久市	多久東部	多久市南多久町大字下多久	22	弥生土器、土師器が数点出土したのみで遺構は検出されなかった。	
佐賀南部	武雄市	川 登	武雄市西川登町	23	近世窯跡の物原を検出	
	北方町	橋 下	杵島郡北方町大字橋下	12	遺構、遺物は検出されなかった。	
		大 崎	" 大字大崎	9.5	弥生時代～中世の土壤、柱穴、遺物包含層を検出	
	白石町	白石西第1(西郷)	杵島郡白石町大字東郷	25	遺構、遺物は検出されなかった。	
		" 第2(馬田)	杵島郡白石町大字馬洗	22	"	
		" 第4(小島)	杵島郡白石町大字堤	20	"	
	有明町	有明第1	杵島郡有明町大字坂田	20	"	
		" 第3	" 大字田野上	23	"	
		牛 間 田	" 大字深浦	3	中世の近世の土壤、柱穴を検出	
	塩田町	塩 田	藤津郡塩田町大字谷所	15	遺構、遺物は検出されなかった。	
		南 志 田	" 大字久間	3.8	"	
		西 山	" "	2.1	"	
		塩 吹	" 大字馬場下	6.1	"	
		北大草野	" 大字大草野	3.6	現地踏査の結果、遺跡の存在は考えられなかった。	
佐賀北部	嬉野町	下 宿	藤津郡嬉野町大字下宿	11.7	磨滅した土師器片が出土したのみで遺構は検出されなかった。	
		下 野	" 大字下野	4.0	遺構、遺物は検出されなかった。	
	伊万里市	上伊万里	伊万里市大河内町丙	12	現地踏査の結果、遺跡の存在は考えられなかった。	
		波多津	" 大字筒井	15	"	
		東山代西部	" 東山代町	4.8	"	
		山代西部	" 山代町東松浦郡相知町	3.6	"	
	相知町	伊岐佐	東松浦郡相知町大字伊岐佐上	10	縄文時代～中世の溝跡、柱穴を検出	
	西有田町	曲 川	西松浦郡西有田町大字曲川	27	遺構、遺物は検出されなかった。	
佐賀上場		大 山	" 大字山谷	20	"	
		黒 岩	" "	5	"	
	富士町	合 潤	佐賀市富士町大字下合瀬	2.4	"	S. 57工事
	唐津市	西 浦	唐津市大字菜畑	36.1	"	
肥前町	七 江	東松浦郡肥前町大字納所	30	縄文時代～弥生時代の土壤を検出。		

表2 昭和57年度 発掘調査遺跡一覧表

地 区	市町村名	遺 跡 名	略 号	遺 跡 所 在 地	調査面積(m ²)	調 査 期 間	調 査 主 体 者	遺 跡 の 内 容	備 考
佐 賀 東 部	鳥栖市	日岸田遺跡	H I G	鳥栖市神辺町字日岸田他	180	昭58. 1	鳥栖市教委	古墳時代前期集落跡、奈良時代溝跡	
	三根町	天建寺土居内遺跡	T K G	三養基郡三根町大字天建寺	2,000	昭57. 12～昭58. 3	三根町教委	奈良時代～室町時代集落跡	
	三田川町	田手一本黒木遺跡	T D I	神埼郡三田川町大字田手	1,100	昭57. 4～昭57. 7	三田川町教委・県教委	弥生時代中期集落跡	
	東脊振村	大曲遺跡群東外A遺跡	H G S	神埼郡東脊振村大字大曲	2,500	昭57. 7～昭58. 3	東脊振村教委	弥生時代後期集落跡	
		松ノ内A遺跡	M N U	"	3,050	"	"	弥生時代中期～後期墓地	
		瀬ノ尾A・B遺跡	S E O	"	950	"	"	弥生時代中期～奈良時代集落跡	
		大曲柏原A遺跡	O K W	"	800	"	"	弥生時代後期集落跡	
	千代田町	詫田西分貝塚	T T N	神埼郡千代田町大字詫田	2,600	昭57. 7～昭58. 3	千代田町教委・県教委	弥生時代中期～江戸時代中期跡・墓地・貝塚	
	神埼町	志波屋六本松遺跡	S Y R	神埼郡神埼町大字志波屋	8,000	昭57. 7～昭57. 10	神埼町教委	縄文時代早・後期、古墳時代後期集落跡	
佐 賀 西 部	諸富町	徳富権現堂遺跡	T G S	佐賀郡諸富町大字徳富	1,300	昭57. 8～昭57. 10	諸富町教委	弥生時代後期～鎌倉時代集落跡	
	大和町	久池井二本杉遺跡	K N S	佐賀郡大和町大字久池井	2,500	"	大和町教委	土壤	
	三日月町	織島西分B遺跡	O N S	小城郡三日月町大字甘久	2,600	昭57. 4～昭57. 6	三日月町教委	弥生時代前期～古墳時代前期集落跡	
		織島西分C遺跡	O N S	"	100	"	"	平安時代～室町時代集落跡	
佐 賀 南 部	武雄市	上滝遺跡群後田遺跡	U R D	武雄市朝日町大字織島	"	昭57. 5～昭57. 12	武雄市教委	弥生時代～歴史時代井戸跡・土壤	
		大鹿遺跡	O O S	武雄市橋町大字芦原	750	"	"		
		森崎遺跡	M R Z	"	"	"	"	弥生時代後期～古墳時代井戸跡	
		林副遺跡	H Y Z	"	"	"	"	平安時代前半土壤・柱穴・溝跡	
	白石町	馬洗神辺遺跡	M O K	杵島郡白石町大字馬洗	2,100	昭57. 7～昭57. 10	白石町教委・県教委	室町時代～江戸時代集落跡・墓地	
	塩田町	本志田原・白久保遺跡	H C H S I R	藤津郡塩田町大字久間	2,000	昭57. 4～昭58. 3	塩田町教委		
		大黒町遺跡	D K C	藤津郡塩田町大字五町田	600	昭57. 7～	塩田町教委	奈良時代～平安時代集落跡	官衛跡の可能性が強い
	西有田	楠木原遺跡	K K B	西松浦郡西有田町大字曲川	1,700	昭57. 10～昭58. 3	西有田町教委	江戸時代中期集落跡	
		坂ノ本遺跡	S K M	西松浦郡西有田町大字	1,500	"	"	縄文時代土壤、遺物包含層	
佐 賀 上 場	唐津市	後川内石ヶ元遺跡	U I M	唐津市後川内	3,500	昭57. 10～昭57. 11	唐津市教委	縄文時代～中世柱穴・土壤、江戸時代水田跡	
	北波多村	上平野A・B遺跡	K H N-A・B	東松浦郡北波多村大字上平野	1,000	昭57. 7～昭57. 8	北波多村教委	江戸時代墓地	
	肥前町	小平遺跡	K D I	東松浦郡肥前町大字星賀	500	昭57. 10～昭57. 11	肥前町教委	縄文時代早・前・後期土壤	
		川原田遺跡	K H D	東松浦郡肥前町大字新木原	1,300	昭57. 5～昭57. 6	"	旧石器時代遺物包含層	
	鎮西町	波戸遺跡群永田A・C遺跡	H N G-A・C	東松浦郡鎮西町大字波戸	2,000	昭57. 8～昭57. 9	鎮西町教委	縄文時代早期土壤、弥生時代中期集落	
		鳥ノ巣遺跡	H T R	"	"	"	"	鎌倉時代墓地	ファームポンド
		後田遺跡	U S J	" 大字横竹	"	"	"	弥生時代中期土壤	
佐賀東部導水路	神埼町	野田遺跡	N O D	神埼郡神埼町大字竹	12200	昭57. 4～昭57. 6	佐賀県教委	弥生時代中期土壤	
		川寄吉原遺跡	K Y Y	"	800	昭57. 8～昭57. 9	"	弥生時代後期集落跡	
		尾崎土生遺跡	O S H	神埼郡神埼町大字尾崎	1,200	昭58. 1～昭58. 3	"	古墳時代前期～鎌倉時代集落跡	

III. 昭和57年度確認調査の内容



- | | | |
|----------------|---------------|------------|
| 1 A、鳥栖市（貝方地区） | 4、東脊振村（下石動地区） | ②、天建寺遺跡 |
| 1 B、"（村田地区） | 5、三田川町 | ③、大曲遺跡群 |
| 2 A、北茂安西部地区 | 6、神崎町（本堀地区） | ④、田手一本黒木遺跡 |
| 2 B、"（北茂安東部地区） | 7 A、千代田町（姉地区） | ⑤、志波屋六本松遺跡 |
| 3、三根町（三根東地区） | 7 B、"（下板地区） | ⑥、詫田西分貝塚 |

第2図 佐賀東部地区周辺地形図(1)

①鳥栖市（貝方・村田地区）

貝方地区は、鳥栖市街地より北方向に約5km離れた山あいに位置し、鳥栖市河内町字貝方その他に所在する。九千部山麓下の城山（494m）を水源とする安良川が開谷した狭い谷あいに集落と耕作地は点在している。海拔標高は200m以上で、最高所は240m前後となる。調査は対象地約5.0haに、幅2mの試掘溝8ヶ所設定して、遺構の検出にあたった。その結果、遺構・遺物ともに検出されず、遺跡の存在は考えられない。

村田地区は鳥栖市の南西部にあたり、鳥栖市村田町字二本松その他に所在する。村田町一帯は朝日山（133m）の南麓にひろがる低位段丘上に集落があり、段丘下（海拔標高10m以下）が主に水田となっている。調査は、対象地約4.5haに、幅2mの試掘溝2ヶ所を設定して、遺構・遺物の検出にあたった。また、表土（耕作土）剥ぎにも立ち合った。その結果、対象地は沼川の形成する氾濫源で、砂礫地ならびに泥湿地が多く、遺物の流れこみが若干認められたものの、遺構は検出されなかった。

②北茂安町（北茂安東部地区、西部地区）

北茂安東部地区は、北茂安町大字江口の7haについて調査した。調査対象地区は、寒水川と筑後川にはさまれた標高3.5~3.6mの沖積平野上に立地する。周辺には中世の遺物散布地である江口遺跡などが所在する。

調査は水路予定地を中心に17の試掘溝を設けた。その結果、遺構・遺物は検出されなかった。

北茂安西部地区は、北茂安町大字中津隈の6haについて調査した。調査対象地は、切通川と寒水川にはさまれた標高3.8~4.5mの沖積平野上に立地する。地区の北側には弥生時代の集落跡である中津隈遺跡をはじめ、千飯遺跡、宝満谷遺跡等、弥生時代



第3図 佐賀東部地区周辺地形図(2)



第4図 三根町三根東（天建寺地区）試掘溝配置図

から中世にかけての遺跡が多数存在する。調査は、水路予定地を中心に60ヶ所の試掘溝を設けた。その結果、遺構・遺物は検出されなかった。

③三根町（三根東地区）

三根東（天建寺）地区は、佐賀平野の東、有明海の干満作用と筑後川の沖積作用により形成された標高3m程の低平な沖積平野に位置する。今回の調査対象地は、南島、石井、土居内の北側から寒水川にかけての約58haである。この地域には、南島遺跡、石井北方貝塚など弥生時代の遺跡が周知されており、調査対象地にもこれらの遺跡が広がっていると考えられた。

調査は、水路予定地について98ヶ所の試掘溝を設けた。その結果、調査対象地の南側幹線水路部分から弥生時代の井戸跡・柱穴が、また県道東側からは土師器片を含む柱穴を検出した。

のことから前者は南島遺跡の東限と見られ、弥生時代集落の存在が考えられる。また後者は昨年度確認調査を実施した天建寺土居内遺跡の北限と見られ、中世集落の存在が考えられる。

④神埼町（本堀地区）

調査対象地区は、神埼町南部に位置し、城原川と馬場川に挟まれた標高約3～5mの低平な沖積地である。対象地区は、県下でも条里跡が良好な状態で残っている地域であり、調査の主眼は、条里関係遺構確認を中心に行なった。調査は、水路予定地を中心に実施し、335ヶ所の試掘溝を設けた。その結果、調査対象区西地区において、溝状遺構と思われる黒色土の落込みと、杭状の木器と流木を確認した。出土遺物は、少量の土器片があるのみであった。以上のように、今回の調査では、一部、溝状の落込みを確認したのみで、明確な遺構等の存在は認められなかった。今後、条里跡の現況保存を含め、多方面からの調査を行なう必要がある。

⑤三田川町（乙ノ馬手地区）

乙ノ馬手地区は三田川町大字箱川の25haについて調査した。調査対象地は三田川町の南部に位置する。田手川の西岸、標高3～4mの沖積平野上に立地する。地区東には、弥生時代の貝塚である下藤貝塚が存在する。調査は、水路予定地を中心に28の試掘溝を設けた。その結果、表土下約30cmで灰青褐色土の粘質土になり、遺構・遺物は検出されなかった。

⑥千代田町（姉・下板地区）

調査対象地は佐賀平野東部を南流する城原川の下流東岸、標高3m程の低平な沖積地で、現在水田に利用されている。地区内には姉・下直鳥貝塚等の弥生時代貝塚や姉一本松・境原四本松遺跡等の中世遺跡が点在しており、これらの遺跡の広がりに特に留意しつつ調査を進めた。

調査は水路予定地を中心に行い、バックフォーによって139ヶ所の試掘溝を設けた。その結

果、2地域（姉本村・境原）11ヶ所の試掘溝で遺構および遺物包含層を確認した。

姉本村では7ヶ所で遺構を検出した。遺構面は地表下40cmで、土壌・柱穴が比較的密に認められたが、貝層の分布は認められなかった。また遺跡北側の2ヶ所で厚さ1m以上に及ぶ遺物包含層が確認された。遺物としては弥生土器・土師器・瓦器等が出土しており、周辺約80,000m²にわたって弥生時代中期および中世の遺跡の存在が考えられる。

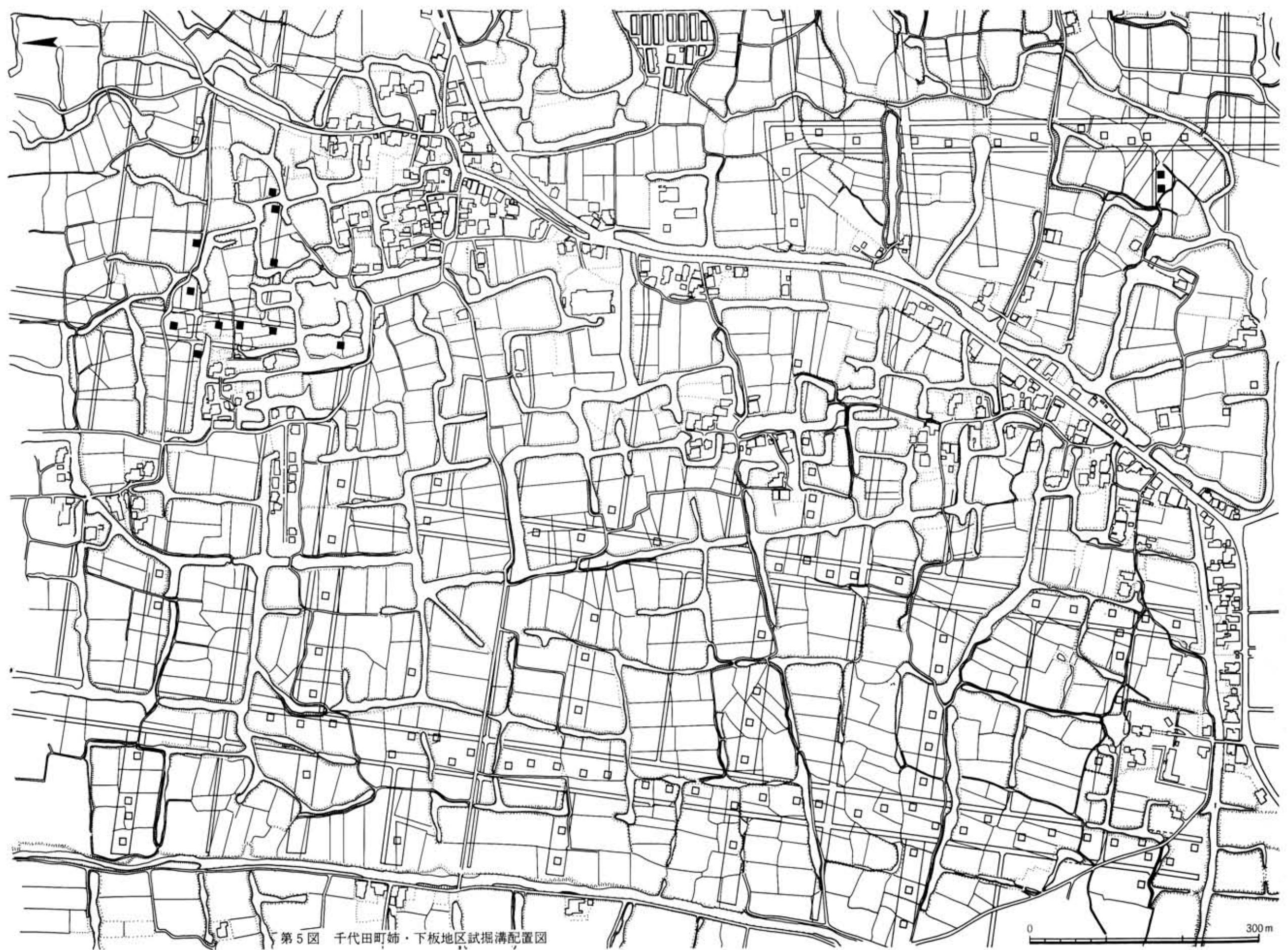
境原遺跡においては2ヶ所で土壌・柱穴等の遺構を検出した。遺構面は地表下40cmで遺構の密度はやや疎らであった。遺物は糸切底の土師器等が若干出土した。周辺約1,000m²に古代末～中世の遺跡の存在が考えられる。

⑦東脊振村（畠外地区）

調査対象地は、東脊振村南東部に位置する目達原洪積段丘（中位）上の標高30～35mの所で、大曲集落北側6haの範囲である。段丘上は緩やかな台地となっており、主に水田として利用されている。調査対象地の東0.8kmには、多くの副葬品を出土した二塚山遺跡群が、西南0.8kmには銅鏡・鉄刀を出土した松原遺跡（従来、横田遺跡と呼称されていた。）が存在している。このように周辺には遺跡が多く、また、調査対象地内にも条里跡が残っている。

調査は対象地内に、約20m間隔でバックフォーによる試掘溝を32ヶ所設定した。その結果、12ヶ所の試掘溝から柱穴、溝跡などが検出され、縄文時代早期の押型文土器や弥生時代から古代、中世にかけての土器片が出土した。標準土層は、第1層（耕作土）が厚さ0.2m。第2層は、厚さ20cmの黒褐色砂質土で遺物を包含する。第3層は、厚さ15～20cmの暗褐色砂質土で、遺構はこの第3層の上面で検出できる。第4層は明黄褐色砂質土で、第3層との層界は漸変である。第3層以下からは遺物は出土していない。

調査の結果、調査対象地の南東部約20,000m²に遺跡が広がっていることを確認した。（畠外遺跡） 遺跡は、遺構・遺物の分布密度が低く、遺跡の性格は明確ではないが、中世を中心とした集落跡が予想される。なお、条里制に関連した遺構は確認できなかった。



第5図 千代田町筋・下板地区試掘溝配置図



1 A、佐賀市蓮池地区 ⑦、久池井二本杉遺跡

1 B、佐賀市嘉瀬地区 ③ B、大和町川上南部第1地区 ⑧、徳富櫛現堂遺跡

2、諸富町地区 ④、多久市多久東部地区 ⑨、織島西分B遺跡

第6図 佐賀西部地区周辺地形図

①佐賀市（蓮池地区、嘉瀬地区）

蓮池地区は、佐賀市の東南部に位置する。調査対象地は佐賀江川下流域の30haで、水路予定地にバックフォーにより35ヶ所の試掘溝を設定した。その結果、近世～近代のものと考えられる磁器片、陶器片、土師質土器片等が少量出土したが、いずれも流れ込みによるもので何らかの遺構に伴うものはなかった。

嘉瀬地区は、佐賀市の南西部に位置する。調査は42haの対象地のうち水路予定地にバックフォーにより32ヶ所の試掘溝を設定した。その結果、遺構・遺物とも全く検出されなかった。層位的には約10cm程の耕作土下に5～10cmの褐色土、その下に灰褐色粘土層となるのが基本的なパターンである。

②諸富町（諸富地区）

諸富地区は、諸富町大字徳富・上大津・橋津の約60haについて行った。この地区は佐賀平野の南端、城原川が筑後川と合流する部分の西側にあたり、標高2～3mの低平な沖積平野である。この地域には、徳富五本松遺跡、上大津城跡など、中世の集落跡、館跡があり調査対象地にもこれらの遺跡が広がっていると考えられた。

調査は、水路予定地を中心に134ヶ所の試掘溝を設けた。その結果、上大津集落の北側から東側にかけての22ヶ所の試掘溝から、古墳時代から近世にかけての柱穴・土壙・井戸跡・溝跡などの遺跡を検出した。

のことから遺跡は、上大津集落の北側、東側からライスセンター西側にかけ、古墳時代から近世にかけての集落、館跡が広範囲に広がるものと考えられる。

③大和町（川上南部第1地区、川上南部第2地区）

川上南部第1(吉富・今古賀)地区は、大和町大字久留間字吉富・今古賀地区的約26haを調査した。吉富・今古賀地区は大和町の西部に位置する。北からのびる脊振山系のゆるやかな丘陵の先端部から平野部にかけての水田地帯である。

調査対象地区は北半分が今古賀遺跡、南半分が吉富遺跡の範囲に含まれており、今回の調査は両遺跡の範囲確認を主眼においた。

調査は対象地区の全域について行ない約50ヶ所を試掘した。その結果、吉富遺跡範囲内の5ヶ所の試掘溝から遺構を検出し、中世の遺物が出土した。

調査対象地区の西南端部に約6,000m²の範囲で中世の遺跡の存在が予想される。

川上南部第2(檜田)地区は、大和町大字池ノ上字檜田の約27haを調査した。調査対象地は大和町の南部に位置し、東は嘉瀬川、西は山王川に挟まれた標高約4～5mの水田地帯である。

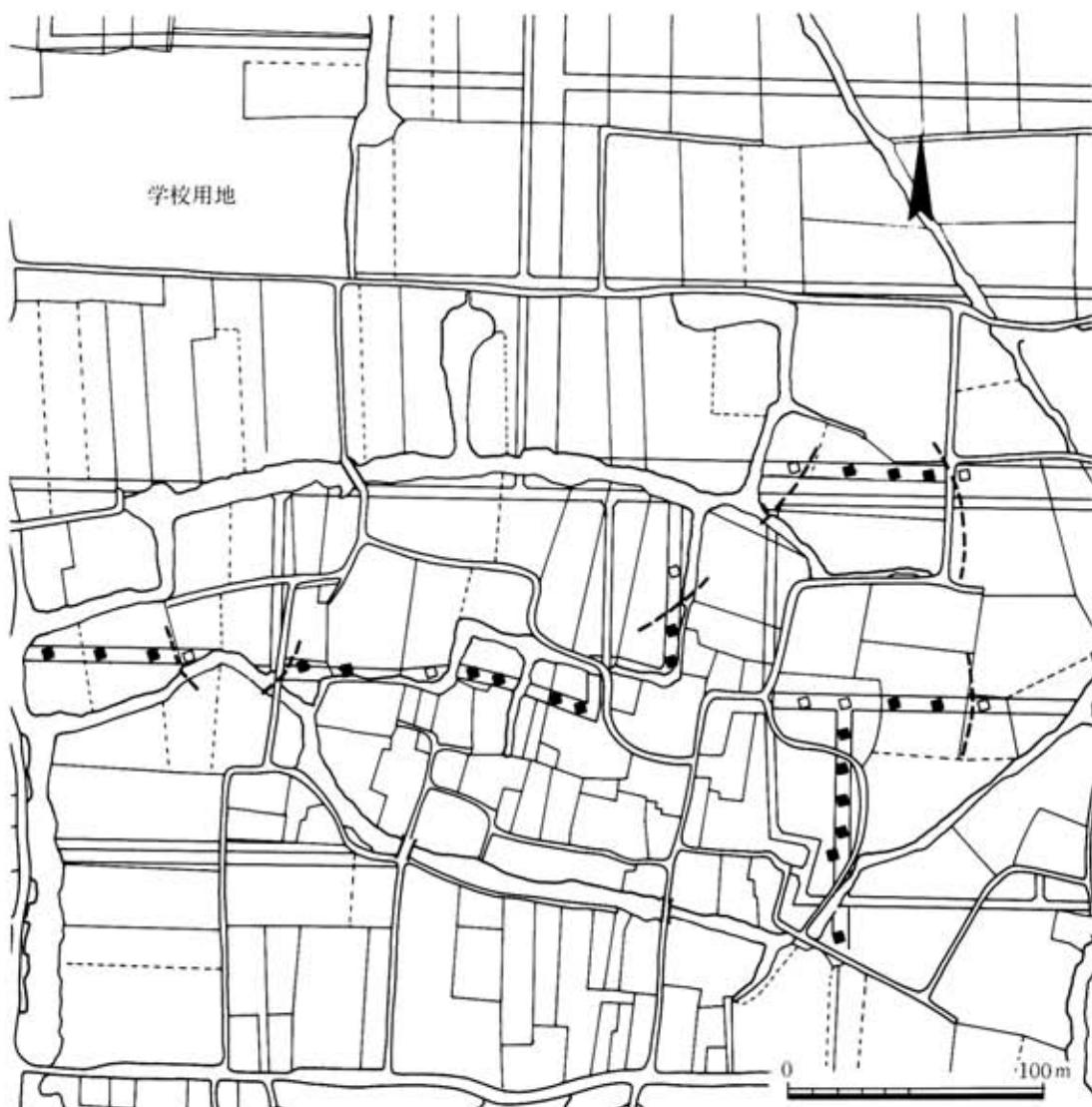
調査対象地区周辺には、昭和25年に本町で最初の学術調査が行なわれた久留間遺跡や昭和55

年に佐賀県教育委員会が調査を実施した久留間カミ塚遺跡など弥生時代の集落跡が点在し、今回の調査でも弥生時代の遺跡の存在を推定して実施した。

調査は主に、水路予定地について行ない約30ヶ所を試掘した。その結果、遺構・遺物は検出されず南からのびる弥生時代の集落跡（橋田三本松遺跡）は調査対象地区までは及ばないことがわかった。

④多久市（多久東部地区）

多久東部地区は、多久盆地の中央部から東部に広がる市内最大の平野部の一端、多久市南多



第7図 諸富町諸富地区試掘溝配置図

久町大字下多久地区の牛津川と今出川が合流する北西部22haを対象とした。

この地域は牛津川を挟んで南に700mの丘陵に、弥生時代中期の遺跡として著名な牟田辺遺跡、北西400mに、中小路遺跡・中小路古墳群が存在する。また、すぐ西側の台地は鎌倉時代～室町時代末まで多久を支配した前多久氏の祖、多久太郎宗直の居館と伝えられる陣内城跡があり後に菩提寺となった延寿寺境内には土壘や古式の五輪塔が残り、付近の道路工事中に青磁碗等が出土している。

調査は対象地区全域に約150ヶ所の試掘溝を設定し実施した。その結果、北西部の庄川東側で弥生土器片や土師器片が数点出土したがこれらはみな磨滅が著しく、庄川の氾濫等に原因する北側丘陵からの流れ込みと考えられる。対象地区中央部は径5～20cmの河原礫が耕作土下全域に広がり遺構は存在しなかった。対象地区東側は今出川の東岸にあたる地域で耕作土下は砂層、砂礫層となっており、昭和24年の水害、同28年の水害で今出川が氾濫し、1m以上の土砂が堆積した地区と伝えられるとおりの土層を示した。



第8図 大和町川上南部第1（吉富・今古賀）地区試掘溝配置図



2 A、北方町大崎地区

4 B、" " 第3（田野上）地区

⑩、上滝遺跡群

2 B、" 橋下地区

4 C、" 牛間田地区

⑪、馬洗神辺遺跡

3 A、白石町白石西第1（西郷）地区

5 A、塙田町塙田地区

⑫、本志田原遺跡

3 B、" " 第2（馬田）地区

5 B、" 南志田地区

⑬、大黒町遺跡

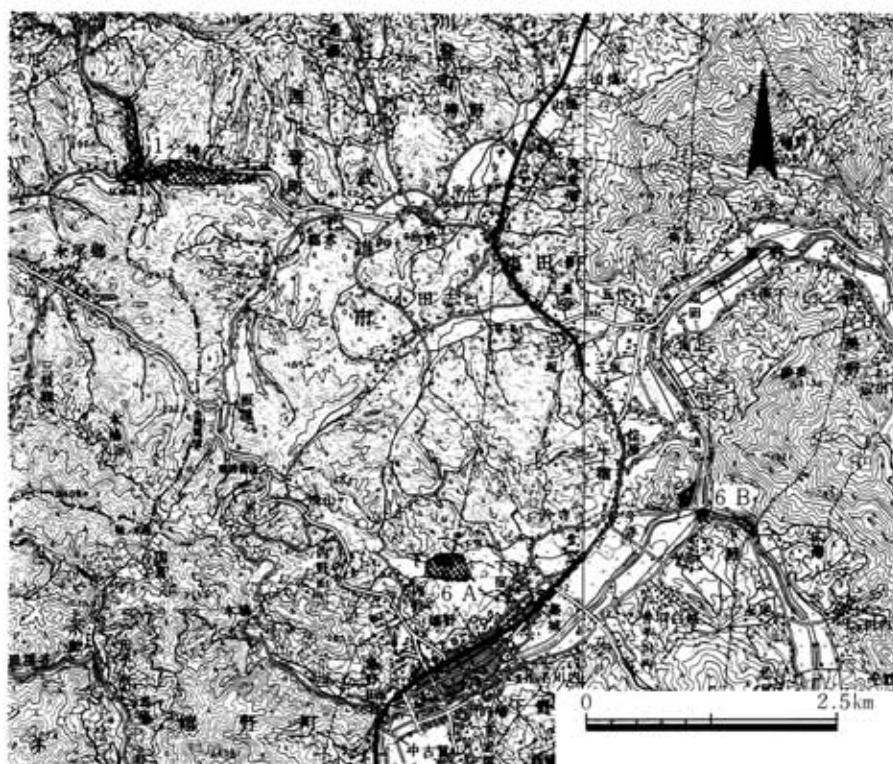
3 C、" " 第4（小島）地区

5 C、" 西山地区

4 A、有明町有明第1（坂田）地区

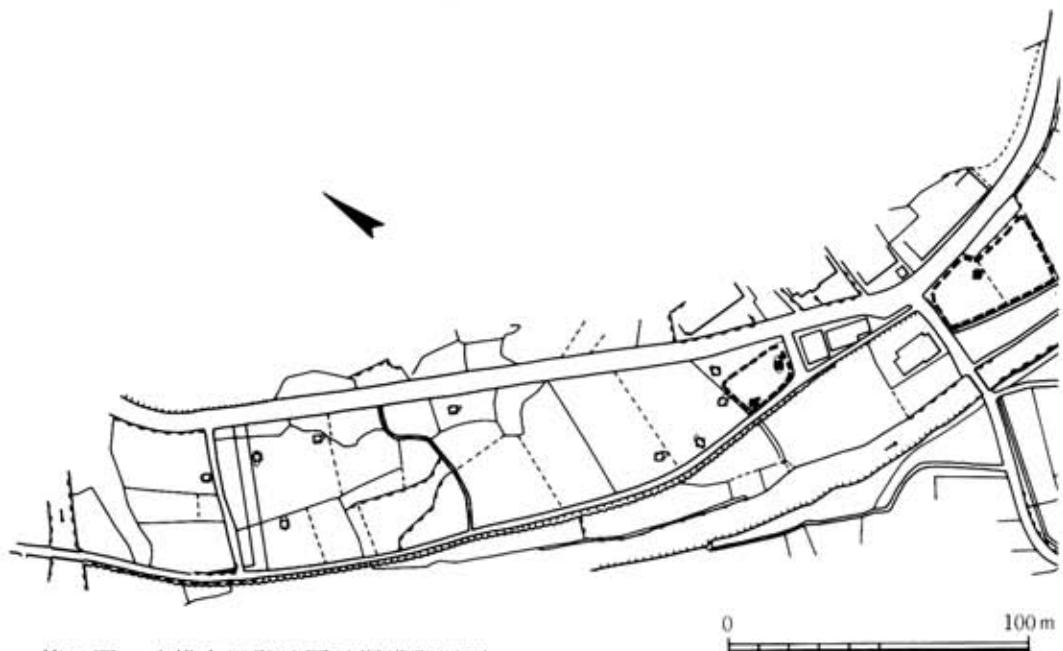
5 D、" 塙田（塙吹）地区

第9図 佐賀南部地区周辺地形図(1)



1、武雄市川登地区 6 A、嬉野町下宿地区 6 B、嬉野町大野地区

第10図 佐賀南部地区周辺地形図(2)



第11図 武雄市川登地区試掘溝配置図

①武雄市（川登地区）

川登地区は武雄市の東・西の両川登町を対象としており、昭和56年より工事が実施されている。今回は西川登町庭木及び神六地区がその対象となっており、昭和58年度の施工面積は約20haとなっている。この地区は六角川上流の谷あいにあり周辺には近世の窯跡や平狩倉遺跡などの縄文時代の遺跡が存在する。調査は昭和58年度分および昭和57年度追加分について、水路予定地及び削平される水田に合計136ヶ所の試掘溝を設けて行った。その結果2ヶ所において地表下約0.4mの褐色土より、近世の陶器片が多数出土した。のことより、この2ヶ所については近世窯跡の物原かと推定された。

なお、この2ヶ所については、農業基盤整備事業担当部局との協議により、遺物確認面を削平しないことで話がまとまり、遺跡は保存されることになった。

②北方町（橋下地区、大崎地区）

橋下地区は北方町大字芦原の12haについて調査した。調査対象地は杵島山系の勇猛山の北側山麓の標高32~34mの沖積平野上に立地する。地区北には、弥生時代、古墳時代および中世の墳墓、遺物散布地である杵島山遺跡や天神面遺跡が存在する。また南には弥生時代、古墳時代、中世の墳墓、遺物散布地である芦原五本松遺跡や古墳群が存在する。調査は水路予定地に40ヶ所の試掘溝を設けた。その結果、遺構・遺物は検出されなかった。

大崎地区は、北方町大字大崎の9.5haについて調査した。調査対象地は北方町の西部、徳連岳の南麓、六角川の支流を作る谷部に形成された水田部に立地する。この地区的周辺には銅剣・管玉・巴型銅器等が出土した東宮裾遺跡をはじめ、立山遺跡や桜木遺跡など縄文から中世にかけての遺跡が多数存在する。調査は水路予定地と、削平を受ける部分に93ヶ所の試掘溝を設けて行なった。その結果、21ヶ所の試掘溝から柱穴、土壤、包含層が検出され、弥生土器、須恵器、土師器片が出土した。遺溝は地表から20~50cmの黄色粘質土に掘り込んでいた。丘陵沿いに14,600m²の弥生時代から中世にかけての遺跡の存在が予想される。

③白石町（白石西第1地区、白石西第2地区、白石西第4地区）

白石西第1（西郷）地区は、六角川が大町町、江北町境界で屈曲する部分の南側22haを調査した。対象地区的東側には伝六角判官館跡がある。調査は水路予定部分について行ない23ヶ所に試掘溝を設定した。その結果、表土下15~25cmで灰色粘質土になり、耕作土中から土器片が数点出土したのみで遺構は検出されなかった。

白石西第2（馬田）地区は、西郷地区の西側の標高2~3mの水田部で、約25haを調査した。調査対象地は馬田遺跡（古代~中世）の東部分にあたり、水路予定部分に25ヶ所の試掘構を設定した。その結果、表土下10~45cmで灰色粘土になり、耕作土中から土器片が出土したのみで



第12図 北方町大崎地区試掘溝配置図

0 150 m

遺構は検出されなかった。

白石西第4（小島）地区は白石平野の西、杵島山の東側の標高2～3mの水田部で20haを調査した。調査対象地区内西側には小島遺跡（古墳時代～中世）が存在する。調査は水路予定部分について行い、試掘溝を56ヶ所に設定した。その結果、1ヶ所の試掘溝から10～20cmの遺物包含層が確認された。その他の試掘溝では、表土下12～40cmで淡灰色～淡黄褐色粘質土になり、耕作土中より土器片が出土したのみで、遺構は検出されなかった。

④有明町（牛間田地区、有明第1地区、有明第3地区）

牛間田地区は、有明町大字深浦下牛間田の塩田川北側標高2～3mの沖積平野上の3haを調査した。調査対象地区周辺は、白岩山（標高340.3m）の南斜面に道祖遺跡、堤の上遺跡など縄文時代の散布地はあるが、平野部の遺跡は知られていない。しかし塩田川流域ということから中・近世の遺跡の存在が考えられた。調査は、水路部分と中央の2ヶ所に在る小高い部分について13ヶ所の試掘溝を設けて行った。その結果、2ヶ所の小高い部分から中世～近世にかけての土壤、柱穴を検出した。

のことから水田部より一段小高い1,400mについては、中近世の集落の存在が考えられる。

有明第1（田野上）・有明第3（坂田）両地区は、白石平野南西部、杵島山の東側で標高2.5～3mの沖積平野上の43haを調査した。

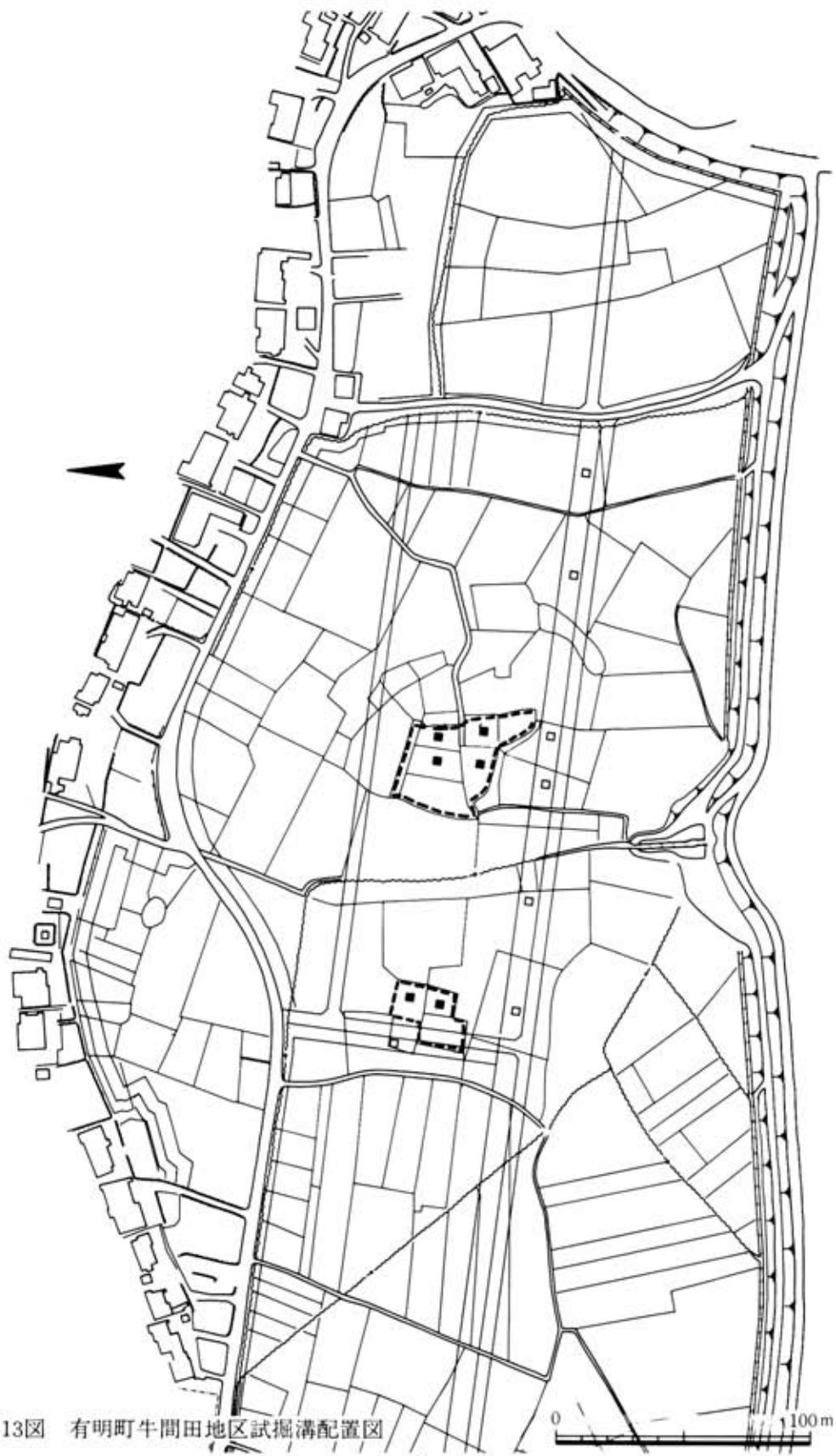
田野上地区の北側には田ノ上一本松遺跡、辺田三本松遺跡、田ノ上五本杉遺跡、島津城跡など弥生時代～中世にかけての遺跡が存在している。調査は水路予定地（掘削部分）及び畑地（削平部分）に、33ヶ所の試掘溝を設定して行った。その結果、表土下16～33cmで灰褐色粘質土になり遺構・遺物は検出されなかった。

⑤塩田町（南志田地区、西山地区、塩吹地区、塩田地区）

南志田地区は、塩田町大字久間の3.8haを調査した。調査対象地は杵島山系より西に流れる、入江川の支流が形成した扇状地上に立地する。西には縄文～古墳時代の南志田遺跡、南には縄文時代の白久保遺跡や堤ノ上遺跡が存在する。また東側の飯盛山中腹には黒曜石片が散布する。調査は、対象地のほぼ全域に48の試掘溝を設けて行った。その結果、遺構・遺物は検出されなかった。

西山地区は、塩田町大字久間の2.1haを調査した。調査対象地は塩田町北部、虚空藏山の東麓に立地する。調査対象地区は2ヶ所にわかれれる。いずれも谷部に拓かれた水田である。周辺には志田西山窯跡が点在しており、現在も窯業が行なわれている。調査は対象地の全面に19の試掘溝を設けて行った。その結果、南側調査区の北側の3ヶ所から近世～現代の陶器片が出土したが、遺構は検出されなかった。

塩吹地区は塩田町大字馬場下の6.2haを調査した。調査対象地は、南流して塩田川にそそぐ河



第13図 有明町牛間田地区試掘溝配置図

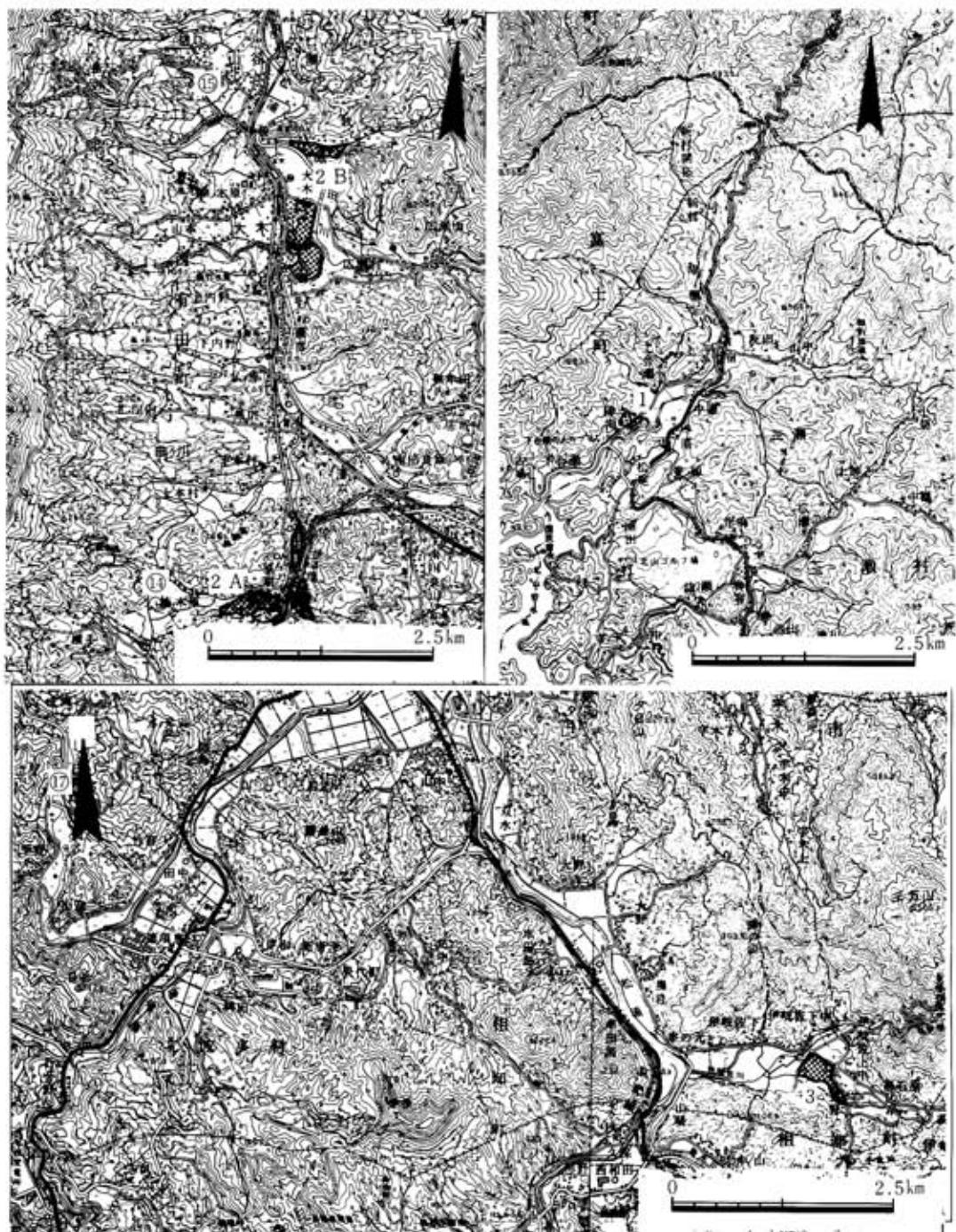
川と塩田川によって形成された沖積地上の水田部で、この地区は從来、弥生時代と近世の遺物散布地である板の平遺跡および城の下遺跡とされていた。また東側の丘陵には黒曜石片が散布していた。調査は、対象地全域に38ヶ所の試掘溝を設けて行った。その結果、陶器片が数点出土したのみで、遺構は検出されなかった。

塩田地区（下童）は、塩田町大字谷所の15haを調査した。調査対象地は、塩田町の南部、唐泉山の東麓にあたり、鹿島川に囲まれた標高2.7~4.3mの沖積平野上に立地している。南側の丘陵には城跡や下童経塚が存在する。調査は水路予定地を中心に31ヶ所の試掘溝を設けて行った。その結果、遺構・遺物は検出されなかった。

⑥嬉野町（下宿地区、下野地区）

下宿地区は嬉野町の北部、西から東へと流れる下宿川の南側に開けた標高60m程の段丘上に立地する。調査対象地の北側丘陵には中世の城ノ前城跡が、南側の丘陵には近世の鷺巣窯跡が存在する。調査は、対象地10.9haについて行ない水路部分、削平部分に60ヶ所の試掘溝を設けた。その結果、調査対象地は砂礫層が広がっている部分が多く、東側の試掘溝から磨滅した土師器片が出土したのみで、遺構は検出されなかった。

下野地区は嬉野町の北西部、南西から北東へと流下する塩田川の南側段丘上に立地する。調査対象地の北側丘陵には中世の岩屋城跡があり、調査区にも中世の遺構が存在すると考えられた。調査は、対象地4.0haについて行ない削平部分を中心に18ヶ所の試掘溝を設けた。その結果、調査対象地は砂礫層が広がっている所が多く、遺構・遺物は検出されなかった。



1、富士町合瀬地区 3、相知町伊岐佐地区 ⑯、上平野A・B遺跡

2 A、西有田町曲川地区 ⑰、楠木原遺跡

2 B、" 大山地区 ⑱、坂ノ本遺跡

第14図 佐賀北部地区周辺地形図

①富士町（桶口地区）

調査対象地は、富士町の北東部、三瀬村との境に位置する。初瀬川西岸の標高498～502mの河岸段丘上にあり、水田と畑地として利用されている。対象地が縄文時代の遺物散布地の陣内遺跡の範囲に含まれており、また踏査で青磁・土師器の破片が採集されたため約2.4haについて調査を実施した。

調査は対象地のほぼ全域について行い、60ヶ所を試掘した。その結果、表土下約20～30cmで黄色砂質土が現われ、遺構・遺物は全く検出されなかった。また北側の一部は湿地帯で表土下約20～25cmで青色粘土が現われた。

②相知町（伊岐佐地区）

伊岐佐地区は相知町大字伊岐佐の10haを調査した。調査対象地は、相知町北方の作礼山西麓、右伊岐佐川と左伊岐佐川に挟まれた河岸段丘上に立地する。伊岐佐地区の北の陣の山中腹には縄文時代の遺物散布地である塩木遺跡や伊岐佐古墳群が存在する。また東側は、昭和56年度の確認調査で中世の集落跡が確認された。

調査は対象地区全域に50の試掘溝を設けた。その結果、17ヶ所の試掘溝で柱穴と溝が検出され、縄文土器・弥生土器・須恵器・石鍋等の破片が出土した。9,400m²の範囲に縄文時代から中世にかけての遺跡の存在が予想される。

③西有田町（曲川地区・大木地区・黒岩地区）

曲川地区は、西有田町大字曲川（丙）の約27haを調査した。調査対象地は、有田川東岸の国見山系隠居岳山麓の標高60～70mの水田部である。周辺には、縄文時代の遺跡が多く存在する。対象地南側も熊ノ原遺跡の範囲に含まれていた。他に近世の原明窯跡群・原明番所跡がある。

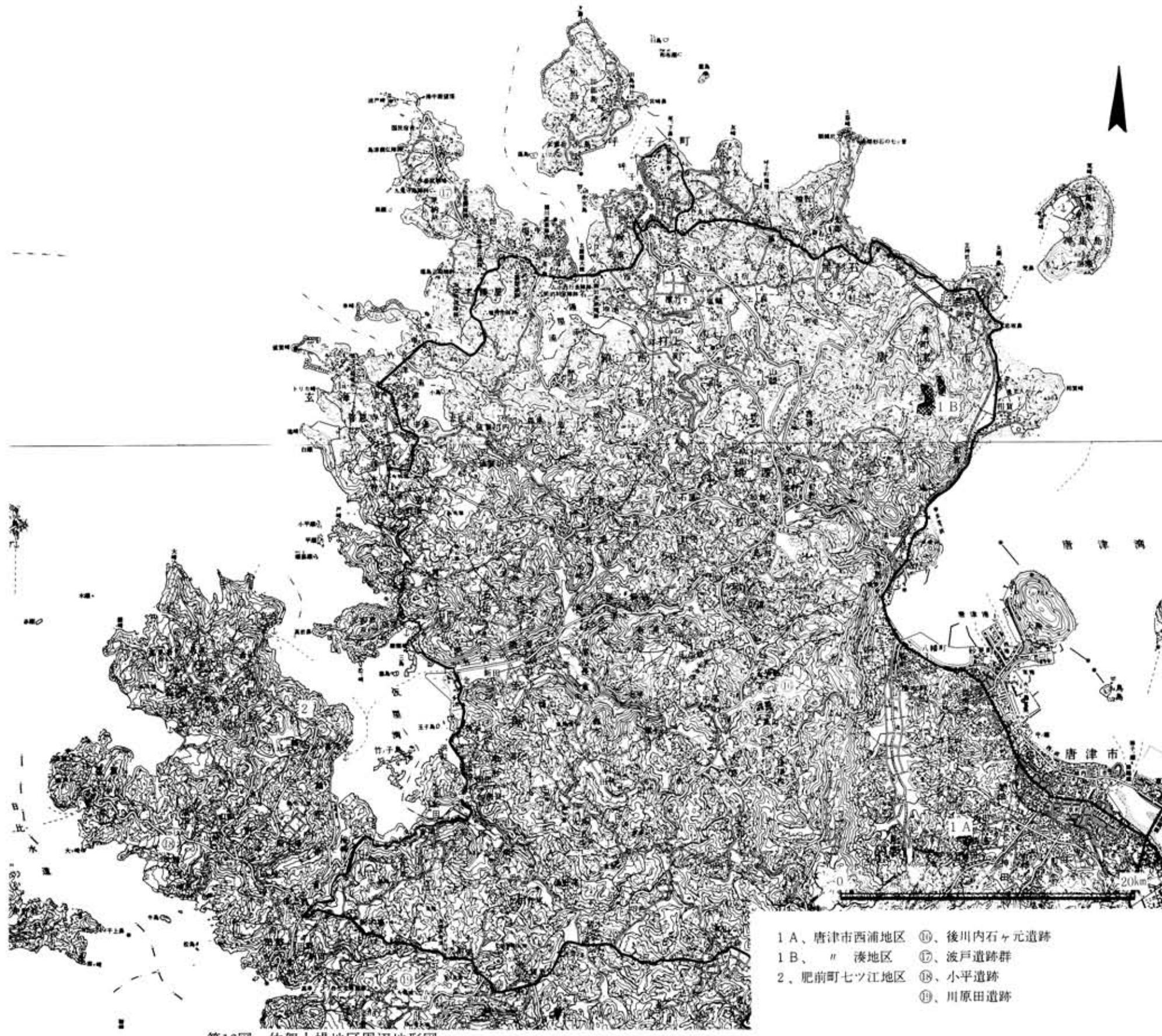
調査は対象地全域について行ない、60ヶ所を試掘した。その結果、遺構・遺物は検出されなかった。

大木地区は、同町大字大木（甲）の約20haを調査した。調査対象地は、藏宿川と有田川が合流する部分の標高35～40mの水田部である。東側・南側の丘陵部に縄文時代の蔵本遺跡・南野遺跡、近世の獅子川窯跡・弁財天窯跡が存在する。調査は、対象地全域について行ない、35ヶ所を試掘した。その結果、遺構・遺物は検出されなかった。

黒岩地区は、同町大字山谷（甲）の約5haを調査した。調査対象地は、有田川東岸の、牧ノ山より派生した丘陵に挟まれた標高30～40mの細長い水田部である。対象地区北側に中世山城跡の唐船城、南側に縄文時代の福石遺跡が存在する。調査は対象地区全域について行ない、15ヶ所を試掘した。その結果、遺構・遺物は検出されなかった。



第15図 相知町伊岐佐地区試掘溝配置図



第16図 佐賀上場地区周辺地形図

IV. 昭和57年度発掘調査の概要

佐賀東部地区

1. 日岸田遺跡(略号:HIG)

遺跡の所在地

鳥栖市神辺町字日岸田他

調査主体者

鳥栖市教育委員会

調査期間

昭和58年1月

調査面積

約180m²

遺跡の概要

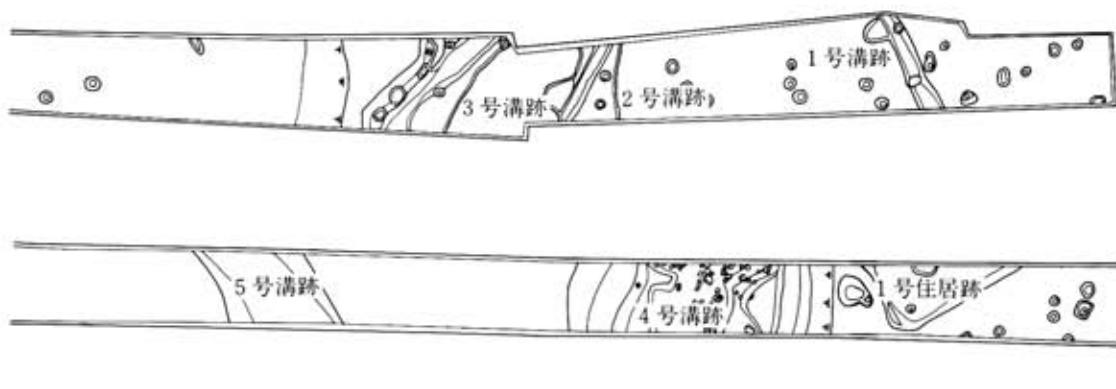
遺跡は、鳥栖市の北東部に位置し、大木川によって形成された標高40~60mの河岸段丘上に立地している。遺跡の北方には、弥生時代から古墳時代の遺跡・古墳が集中する袖比遺跡群が所在する。

昭和56年度の確認調査により、弥生時代後期から古墳時代にかけての集落遺構が検出され、農業基盤整備事業担当部局と設計変更の協議が成立していたが、用水路については九州横断自動車道路との関連上設計変更ができず本調査に至ったものである。

調査は用水路予定地の幅2m、長さ約90mを対象として行い、その結果、竪穴住居跡1軒・溝跡5条・ピット多数その他が検出された。住居跡は出土した土器片から、古墳時代前期のものと判断される。溝跡5条のうち幅約7.3m・深さ約1.2mの溝跡は、出土した須恵器片・土師器片から8世紀代のものと判断される。方向がほぼ東西に沿っていることから、奈良時代の条里に関連する遺構の可能性も考えられる。



日岸田遺跡周辺地形図 (S=1/25,000)



第18図 日岸田遺跡遺構配置図

0 15m



1



2

1. 日岸田遺跡調査区全景

2. 日岸田遺跡住居跡検出状況

てんけんじどいうち
2. 天建寺土居内遺跡（略号：TKD）

遺跡の所在地

三養基郡三根町大字天建寺

調査主体者

三根町教育委員会

調査期間

昭和57年12月～昭和58年3月

調査面積

2000m²

遺跡の概要

天建寺土居内遺跡は、佐賀平野の東端標高3m内外の低平な沖積平野に位置する。遺跡は、正応元年(1288)納江出雲守源義宣により創建されたと伝えられる「天建寺」の周間に所在する。今年度は、「天建寺」の西方一帯の水田で、圃場整備事業により支線、小排水路として掘削される部分の約2,000m²について発掘調査を行った。遺跡は1～3の調査区に分かれている。

天建寺土居内遺跡1区は、幅8m、長さ150mについて調査を行い、奈良時代～室町時代の掘立柱建物跡2棟、井戸跡5基、溝跡11条、土壙などを検出した。掘立柱建物跡は中世の建物と見られ、1間×1間、3間×3間の2棟があり、1間×1間の建物には礎石がある。井戸跡は中世のもので、SE 103は1.6×1.5m、深さ1.5m以上あるが、他は直径1.0m内の小形である。形態は円形の単掘りで、井戸枠等の施設はみられない。溝跡は平安時代～室町時代にかけてのもので、東西に延びる溝跡が8条、南北に延びる溝跡が3条である。遺物は少ないが、SD107からは平安時代の土師器杯、黒色土器碗が出土した。

天建寺土居内遺跡2区は、1区東側に接した幅4m、長さ70mの調査区である。遺構の内容は1区と同様で、中世の井戸跡6基、溝跡2条、土壙3基を検出した。

天建寺土居内遺跡3区は、1、2区の南150mの所に在り、幅4m、長さ70mについて調査を行った。遺構は平安時代、鎌倉時代の井戸跡5基、溝跡1条、土壙4基の他、柱穴と見られる多数の穴を検出した。井戸跡は鎌倉時代のもので、平面は円形で、単掘りのものと二段掘りのものがある。井戸枠等の施設はない。内部から青・白磁の皿・碗、土師器小皿・杯、瓦器碗などが出土した。

このように天建寺土居内遺跡は、筑後川に近い標高3m程の沖積平野上に立地する遺跡で、古代から中世にかけての幅広い遺構が検出された。特に「天建寺」創建前後の鎌倉時代の遺構も多く、今後の「天建寺」の研究に資するところが多いと見られる。



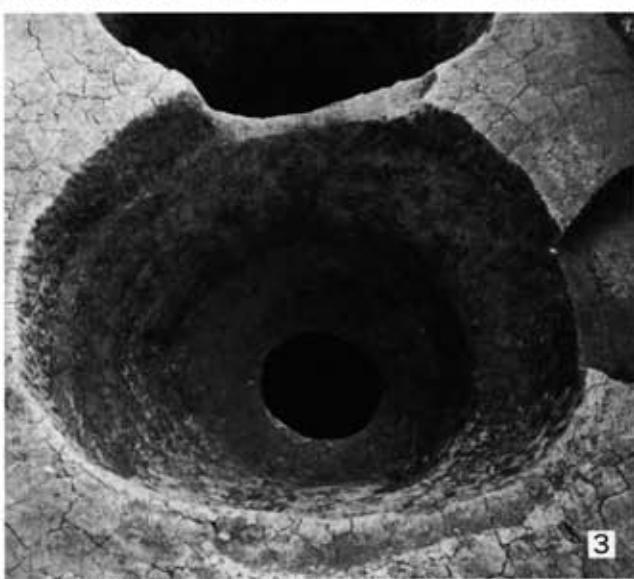
天建寺遺跡周辺地形図 (S = 1/25,000)



1



2



3



4

1. 天建寺土居内遺跡1区全景
3. SE304井戸跡

2. 天建寺土居内遺跡3区全景
4. SE302・303井戸跡

3. 大曲遺跡群 東外A遺跡 (HGS-A)
 松ノ内A遺跡 (MNU-A)
 瀬ノ尾A・B遺跡 (SEO-A・B)
 大曲柏原A遺跡 (OKW-A)

遺跡の所在地

神埼郡東脊振村大字大曲

調査主体者

東脊振村教育委員会

調査期間

昭和57年7月～昭和58年3月

調査面積

7300m²

遺跡の概要

遺跡は東脊振村の東南部、田手川東岸の標高20～25mの目達原段丘（中位）上に点在し、弥生時代中後期から古墳時代にかけての遺跡群である。

東外A遺跡は、横田東山集落の北側に広がる弥生時代の集落遺跡で、遺跡の北東部の削平される部分2500m²について調査を行った。確認された遺構は、弥生時代後期の竪穴住居跡1軒と弥生時代中期と考えられる土壙2基、溝跡1条、古墳時代以降の溝跡3条と道路跡1条である。竪穴住居跡は平面が長方形で、主柱穴を2ヶ所とベッド状部と中央に炉跡を持っていた。

松ノ内A遺跡は、横田南小路集落の東側に広がる弥生時代墓地を中心とした遺跡である。今回の調査地区は、遺跡の南部（第1地区）と東部（第2地区）で、第1地区からは弥生時代中期から後期の襄棺墓20基、土壙墓21基、祭祀遺構3基を検出した。

瀬ノ尾A遺跡は、横田南小路集落一帯の弥生時代から奈良時代にかけて集落遺跡で、調査を行なったのは遺跡東部の水路予定地 650m²である。調査区内からは弥生時代中期の土壙1基と古墳時代後期の井戸跡1基、奈良時代の土壙1基の外、小穴多数を検出した。

瀬ノ尾B遺跡は、横田南小路集落の南に位置し、農道開設事業に伴って削平を受ける 300m²について調査を行なった。調査区は、昭和54年度に佐賀県教育委員会が調査した松ノ森遺跡の東側に臨接しており、今回調査した遺構とも類似している。調査区からは、弥生時代後期の竪穴住居跡8軒と古墳時代後期の竪穴住居跡2軒と掘立柱建物跡2棟を検出した。

大曲柏原A遺跡は、横田南小路集落と三田川町新宮田集落との間に位置する弥生時代の集落遺跡である。調査を行なったのは、村道の付替予定地 800m²で、弥生時代後期の竪穴住居跡1軒と掘立柱建物跡3棟、土壙1基を検出した。

遺物の出土は、各遺跡とも比較的少なかったが、瀬ノ尾B遺跡でややまとまった土器資料を得たほか、松ノ内A遺跡からは34個体分の襄棺と祭祀遺構より仿製鏡・鉄斧・鉄製鍔先などが検出できた。

今回の調査では弥生時代中期から古墳時代後期にかけての遺跡群の一端を示した。



大曲遺跡群周辺地形図 (S = 1/25,000)



1



2



3



4

東外遺跡全景(南西から)

東外遺跡 S B 0 0 7 住居跡(南東から)

東外遺跡 S D 0 0 2 溝跡(北から)

S D 0 0 4 溝跡(北から)



5



6

5. 瀬ノ尾B遺跡第1地点(西から)

6. 松ノ内A遺跡第1地点全景(南から)



7. 濑ノ尾A遺跡第1地区全景(南西から)
8. 濑ノ尾A遺跡S B 0 0 1 住居跡(東から)
9. 松ノ内A遺跡S P 0 0 1 土壙墓
10. 松ノ内A遺跡S P 0 0 2 土壙墓

4. 田手一本黒木遺跡（略号：TDI）

遺跡の所在地

神埼郡三田川町大字田手

調査主体者

三田川町教育委員会

佐賀県教育委員会

調査期間

昭和57年4月～昭和57年6月

調査面積

1,100m²

遺跡の概要

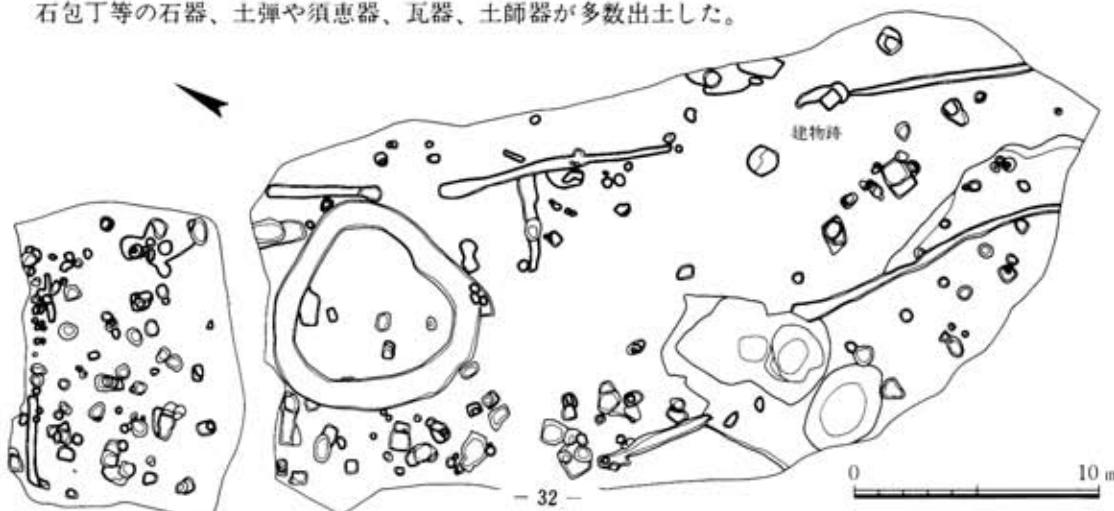
田手一本黒木遺跡は、脊振山系より南に派生する舌状の丘陵のうちの一つである吉野ヶ里丘陵の南西部の裾部に立地している。この吉野ヶ里丘陵には旧石器時代から中世・近世にかけて長期間営まれた遺跡群が存在する。本遺跡は丘陵から西側の水田に広がっており、この水田の圃場整備事業に伴い掘削を受ける水路部と削平される水田部について発掘調査を行なった。遺跡は1～5区に区分しているが、今回調査対象となったのは1区と5区である。

1区は調査区の北側、丘陵に谷状に入り込む水田部の南側に位置する。遺構は弥生時代中期の井戸跡2基、土壙4基、溝跡3条、柱穴である。調査区東部を南北に走る溝跡からは堰跡が検出された。遺構からは土器や木製品をはじめ多くの遺物が出土した。

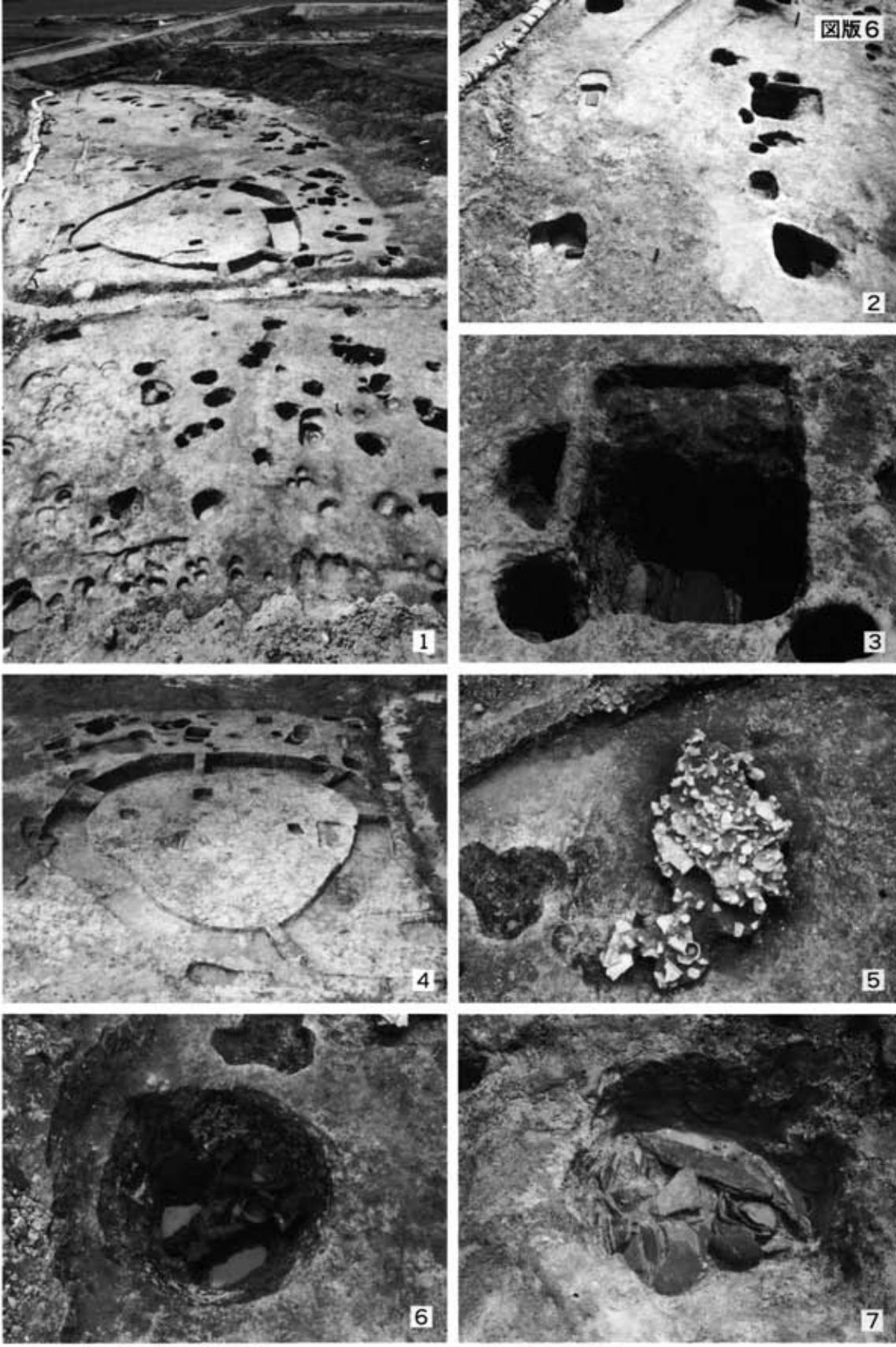
5区は調査区の南側、丘陵に沿った水田である。検出した遺構は、弥生時代の1×2間の掘立柱建物跡1棟、土壙6基、溝跡、柱穴、中世の土壙2基、溝跡が検出された。調査区中央に隅丸三角形状の周溝が検出されたが、出土遺物が少なくその性格、時期決定は困難である。調査区南側で検出された堀立柱建物跡の柱穴のうち5ヶ所から礎板が出土した。遺物は弥生時代の土器、石包丁等の石器、土弾や須恵器、瓦器、土師器が多数出土した。



田手一本黒木遺跡周辺地形図 (S=1/25,000)



第22図 田手一本黒木遺跡5区遺構配置図



1. 田手一本黒木遺跡5区全景

2. 5区SB001掘立柱建物跡

3. 5区SB001掘立柱建物跡柱穴4, 5区周

4. 5区周溝

5. 5区土器溜り

6. 5区SK002土壤

7. SK003土壤

5. 志波屋六本松遺跡（略号：SYR）

遺跡の所在地

神崎郡神崎町大字志波屋字六本松

調査主体者

神崎町教育委員会

調査期間

昭和57年7月～10月

調査面積

8,000m²

調査の概要

遺跡は、神崎町の北部に位置し、標高約38～40mの舌状丘陵上に立地する。丘陵の東側には、三本松川が流れ、浸食によって崖状をなしている。また、三本松川の東岸は、南方へ約6km舌状に延びる吉野ヶ里丘陵で、押型文土器を出土する戦場ヶ谷遺跡、方格規矩鏡・連弧文昭明鏡などの副葬品を出土した三津永田遺跡、伊勢塚前方後円墳が存在する。

調査の結果、縄文時代早期の集石遺構5基、後期前葉～前半頃の竪穴住居跡3軒、後期後葉頃の竪穴住居跡1軒、古墳時代後期の竪穴住居跡19軒、掘立柱建物跡16棟（一部古代～中世期のものが存在）、溝跡9条、土壙1基が検出された。

縄文時代の遺構は、時期別に分布が異なる。早期の集石遺構は、丘陵中央部、現標高約36m前後に集中し、塞ノ神式土器を出土した。後期前半頃の遺構と遺物は、丘陵南半、特に先端部に3軒の住居跡と包含層が分布する。住居跡は、平面形が円形2軒、方形1軒で、阿高式系土器、中津式、鐘ヶ崎式、北久根山式などが出土した。後期後半の住居跡も平面円形で三万田式、御領式土器が出土した。

古墳時代の住居跡は、1軒の長方形のものを除いてすべて平面方形である。丘陵全域にまったく切り合いをもたず分布する。9軒よりカマドを検出した。ほとんどが北壁～北西壁に形成されていた。掘立柱建物跡は、1間×1間、2間×2間の縦柱、1間×2間のものがある。また、時期的に不明確であるが、4間×5間の大型の建物跡が数棟存在しており、おそらく時期的に新しい位置が考えられる。溝跡は、古墳時代のものが、4条ありその中のSD 007・008は、東西方面に長方形状に走っており、溝の内部には、2軒の住居跡と2棟の建物跡が存在する。また、SD 010は、丘陵先端部を東西に走っている。出土遺物には、土器類の他、鉄剣、鉄鎌がある。

以上のように、本遺跡は、縄文時代と古墳時代の集落跡である。縄文時代の住居跡の検出例は、佐賀平野では、極めて少なく注目される。また、古墳時代の集落は、その形成時期が6世紀後半頃の短期間に営まれ、この時期の集落構造を知る上で貴重な資料となる。



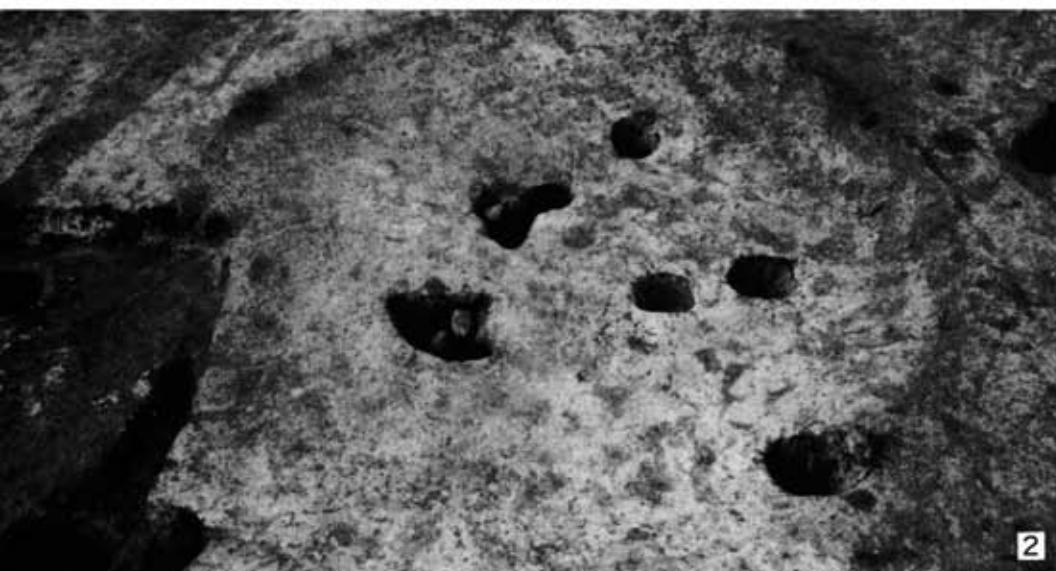
志波屋六本松遺跡周辺地形図 (S=1/25,000)



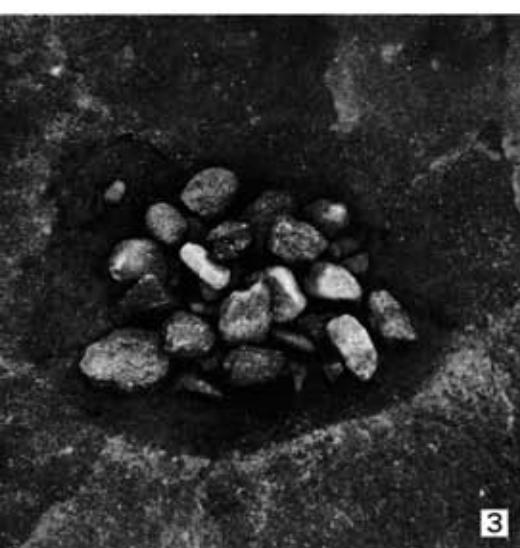
第24図 志波屋六本松遺跡遺構配置図



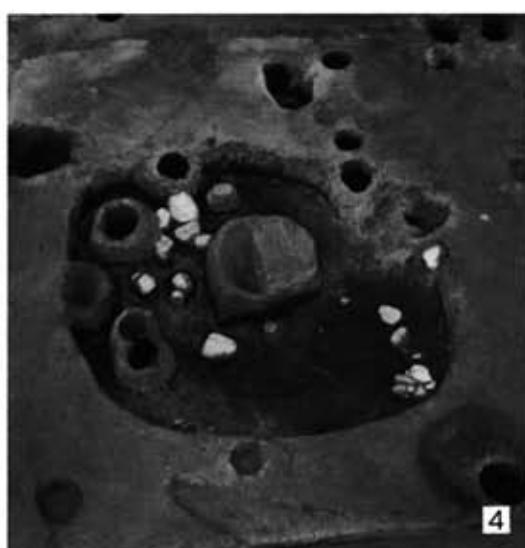
1



2



3



4

1. 志波屋六本松遺跡全景

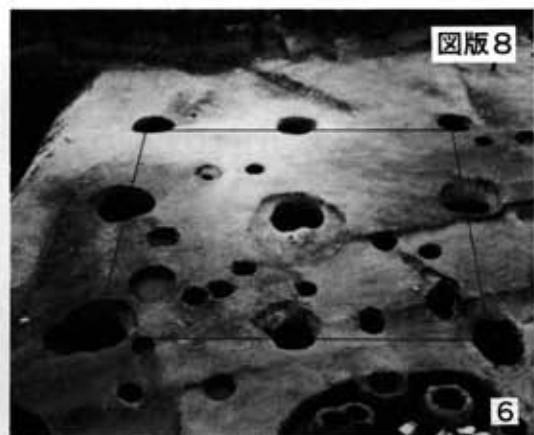
2. SH001住居跡

3. SX004集石

4. SH006住居跡

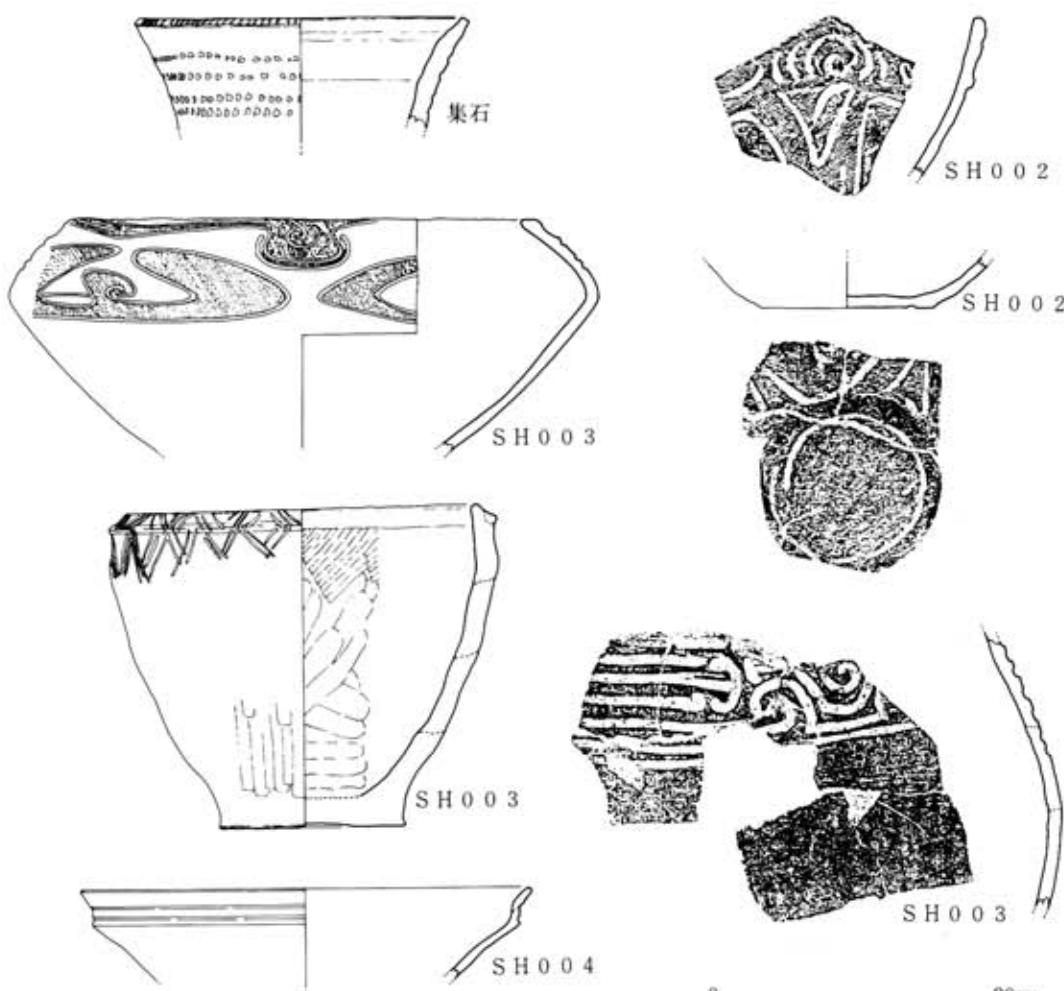


5. SH 01 1 住居跡



6. SB 00 2 建物跡

図版8



第25図 志波屋六本松遺跡出土縄文土器実測図

0 20cm

6. 詫田西分貝塚（略号：TTN）

遺跡の所在地

神埼郡千代田町大字詫田

調査主体者

千代田町教育委員会、佐賀県教育委員会

調査期間

昭和57年7月～昭和58年3月

調査面積

2,600m²

遺跡の概要



詫田西分貝塚周辺地形図 (S=1/25,000)

詫田西分貝塚は、佐賀平野の中央部、城原川と田手川に挟まれた標高3～4mの沖積平野上に立地する。遺跡の北側の荒堅目貝塚、森の木貝塚、高志神社遺跡をはじめとして、周辺には弥生時代～中世にかけての多くの遺跡や貝塚が存在する。調査は掘削を受ける水路予定地について実施し、西よりI～IVの調査区を設けた。

I区からは、弥生時代の掘立柱建物跡、井戸跡、土壙、溝跡、柱穴、古墳時代の井戸跡、中世の土壙墓、土壙、溝跡、柱穴が検出された。また調査区の南側の約80m²の範囲に弥生時代の貝塚を確認した。遺物は、弥生時代の井戸跡から検出した鐸型土製品、鳥形木製品をはじめとする、農耕、狩猟、漁撈、採集、生産、祭祀にわたる様々な遺物が出土した。また貝塚はカキを主体とするもので、貝層からは土器、石器の他、動物骨・魚骨等の自然遺物も多く出土した。

II区からは、弥生時代の井戸跡、貯蔵穴、溝跡、土壙、柱穴、古墳時代の土壙、中世の土壙墓、土壙、柱穴が検出された。遺物としては弥生時代の井戸跡から出土した鐸型土製品、把手付木製容器をはじめ、多くの土器、石器、木製品等の遺物が出土した。室町時代の土壙墓には人骨が遺存しており、副葬品として白磁碗が出土した。

III区からは、弥生時代の土壙、貯蔵穴、井戸跡、溝跡、柱穴、古墳時代の溝跡、柱穴、中世の井戸跡、土壙、柱穴が検出された。出土した遺物には、木剣、柄杓等の木製品をはじめ多くの遺物がある。

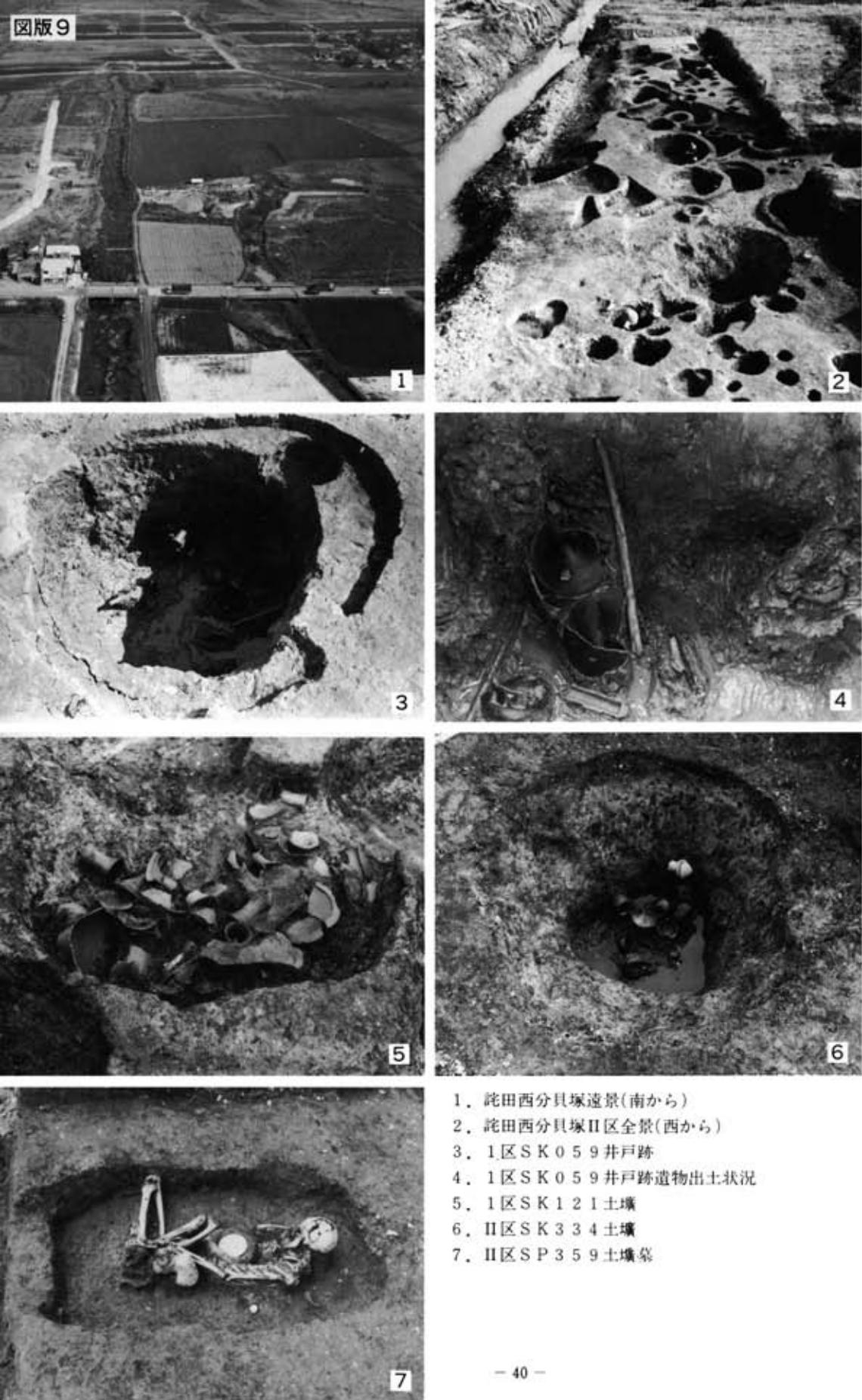
IV区からは、弥生時代の井戸跡、土壙、柱穴、中世の井戸跡、溝跡、柱穴が検出され、土器木製品等多くの遺物が出土した。

以上のように詫田西分貝塚は、弥生時代から中世にかけて長期間営まれた遺跡であり、各時代の多数の遺構が検出された。特に弥生時代中期には、貝類の採集や漁撈が行なわれた半面、農耕もさかんで、いわゆる「半農半漁」の集落であったことがわかる。また、銅鐸の起源を考える上で注目すべき資料である鐸型土製品等貴重な資料が数多く出土した。



第27図 詫田西分貝塚 I 区遺構配置図

第28図 詫田西分貝塚 I 区出土鐸型土製品・鳥形木製品実測図



1. 諂田西分貝塚遠景(南から)
 2. 諂田西分貝塚II区全景(西から)
 3. 1区SK059井戸跡
 4. 1区SK059井戸跡遺物出土状況
 5. 1区SK121土壤
 6. II区SK334土壤
 7. II区SP359土壤墓



8



9



10



11



13



12



14

8. I区SE059井戸跡出土鐸型土製品
9. I区SE059井戸跡出土土器
10. I区SK101土壤出土土器
11. I区SK121土壤出土土器

12. I区出土占骨(鹿角製)
13. I区SE059井戸跡出土手斧柄
14. I区SK121土壤出土木戈

7. 久池井二本杉遺跡(略号: KNS)

遺跡の所在地

佐賀郡大和町大字久池井字二本杉

調査主体者

大和町教育委員会

調査期間

昭和57年7月～昭和57年9月

調査面積

2,500m²



久池井二本杉遺跡周辺地形図 (S=1/25,000)

遺跡の概要

久池井二本杉遺跡は、佐賀郡大和町大字久池井字二本杉に所在する。本遺跡は、脊振山系に水源をもつ嘉瀬川の西岸にあり、脊振山系から南へのびる標高13～14mの微高地状の水田である。

周辺の遺跡としては、西へ0.5kmに昭和49年より佐賀県教育委員会が10ヶ年計画で発掘調査を進めている肥前国府跡、南西1kmには、鴻臚館式の瓦や硯等を出土した肥前国分寺跡、同じく南西7kmには、肥前国分尼寺跡がある。また町内には、昭和25年に本格的発掘調査によって弥生時代の住居跡や洗場、モミなどの植物種子を出土した久留間遺跡。弥生時代前期の豪棺を内蔵する南小路支石墓。7基の陪塚をもつ県内最大の船塚古墳など5基の前方後円墳。奈良時代の創建と考えられ、単弁瓦や鴻臚館系の軒丸瓦や扁平唐草文軒平瓦等が出土している大願寺廃寺。平安時代以降としては、肥前国一の宮として名高い与止日女神社や実相院など町内には、古代肥前国の主要な遺跡や建造物が数多く点在し、肥前国において大和町が重要な位置を占めていたことがわかる。

先に述べた肥前国府跡の調査が進むにつれて国府およびその周辺遺構がしだいに明らかになっているが、九州横断自動車道路建設に伴う発掘調査で久池井遺跡より肥前国府に関連のある倉庫跡が6棟と井戸跡1基が検出された。この久池井遺跡と久池井二本杉遺跡は隣接しており、調査が進むにつれて国府関連遺構の検出に主眼をおき、国府の範囲等についても調査を行なうよう心かけた。しかし、久池井二本杉遺跡からは、国府関連遺構の検出はできず、わずかに土壙墓2基、小穴等を検出したにすぎなかった。土壙墓については、1基は長さ1.5m、幅1m、深さ0.5m。もう1基は、長さ1.5m、幅0.6m、深さ0.5mであった。土壙および小穴からの出土遺物はなく、時期については不明である。なお、国府の範囲については、明確にした。



1



2



3

1. 久池井二本杉遺跡調査区全景
2. 久池井二本杉遺跡調査区全景(東から)
3. 久池井二本杉遺跡土壤墓(北から)

8. 徳富權現堂遺跡 (略号: TGS)

遺跡の所在地

佐賀郡諸富町大字徳富

調査主体者

諸富町教育委員会

調査期間

昭和57年8月~10月

調査面積

1,300m²



徳富權現堂遺跡周辺地形図 (S = 1/25,000)

遺跡の概要

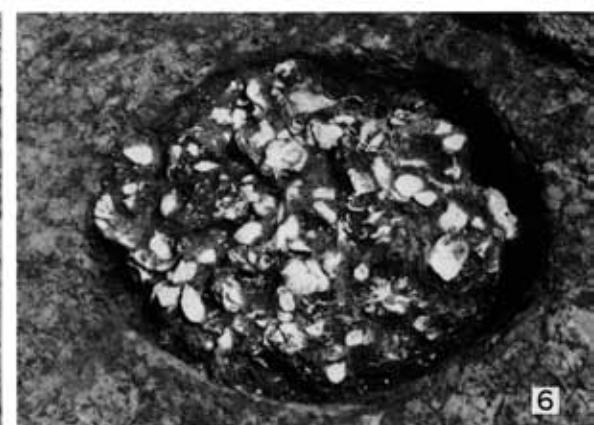
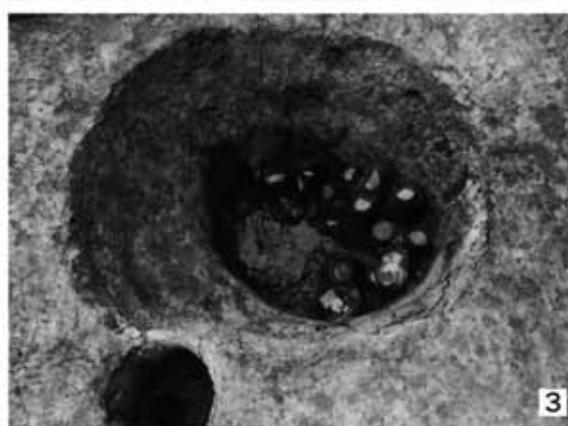
遺跡は、佐賀平野の南端、城原川が筑後川と合流する西側にあたり、標高2~3mの低平な沖積平野に位置する。付近には遺跡の東に徳富本村遺跡が、西に徳富五本松遺跡の中世集落跡が所在する。

徳富權現堂遺跡は、東西約160m、南北約80mの範囲に広がっているが、遺跡の中央部が水路により掘削されることとなり、この水路部分の約1,300m²について発掘調査を実施した。

その結果調査区の中央に幅15mのクリーク状の落込みがあり、この部分から東側は平安時代・鎌倉時代、西側は弥生時代後期・古墳時代・平安時代・鎌倉時代の遺構が存在する。

遺構は、井戸跡、溝跡、掘立柱建物跡、土壙などがある。井戸跡は28基検出した。調査区の全域に見られ、古墳時代前期、平安時代、鎌倉時代のものがある。形態は、上面と底面が同じ円柱状や、上面がわずかに広がるものが多い。他に途中に段がつく二段掘りの井戸が一基ある。井戸枠等は検出されなかった。遺物は、SE128・130井戸跡から古墳時代前期の壺・甕がSE120から平安時代の土師器杯・椀、青磁碗が出た他、SE121・122・123井戸跡からは平安時代末~鎌倉時代の土師器杯・小皿が多量出土した。溝は5条検出した。このうち調査区東側のSD103は、方形に廻ると見られる北側部分を検出した。溝の幅は1.5~2.0m、深さ0.8~1.0m、断面U字状で、溝と溝との内幅は42mである。溝の中からは、鎌倉時代の土師器杯・小皿、瓦器椀・杯、青・白磁の皿・碗の他、獸骨が出土した。掘立柱建物跡は7棟を検出した。1間×1間の建物が3棟、2間×1間の建物が4棟である。時期は弥生時代後期および平安時代末~鎌倉時代と考えられる。

このように徳富權現堂遺跡からは、さまざまな遺構、遺物を検出したが、弥生時代後期の遺跡が、諸富町徳富地区まで南下するという新たな事実の判明したことは重要であり、環溝をそなえる中世集落の検出、およびこの環溝内から出土した大和型と見られる瓦器や多数の中国陶磁器は、中央や大陸との交流を考える上でも注目される。



1. 德富權現堂遺跡調査区全景(西から)
2. 德富權現堂遺跡調査区全景(東から)
3. SE 122 井戸跡
4. SE 115 井戸跡

5. SE 128 井戸跡
6. SK 110 土壌
7. 德富權現堂遺跡出土土器
8. 德富權現堂遺跡出土土器

おりしまにしふん
9. 織島西分B遺跡（略号：ONS）

遺跡の所在地

佐賀県小城郡三日月町大字織島字西分

調査主体者

三日月町教育委員会

調査期間

昭和57年4月～6月

調査面積

2,600m²

遺跡の概要

織島西分B遺跡は佐賀平野の北西部に位置する。天山山系から南東に展開する丘陵末端部の標高20～25.5mの低丘陵上に立地する。当遺跡の西側には岡本遺跡（旧石器時代）、南側には杉町遺跡（古墳時代）、北側には織島西分古墳群（古墳時代）、東側には織島東分遺跡（縄文時代～中世）など各時代の遺跡が存在する。調査対象地区は、農道を挟んで北側をI区、南側をII区とした。

I区からは、弥生時代の溝跡1条、掘立柱建物跡2棟、土壙4基、柱穴約90個を検出し、弥生土器、土師器、青磁、瓦器、磨製石器等が出土した。SD001溝跡は東西の長さが約32mで弧状を呈し、断面はV字状～U字状になる。埋土からは弥生前期後半～中期中葉に位置づけられる土器（甕、壺、支脚等）、磨製石器片が出土した。

II区においては、弥生時代の溝跡2条、竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡2棟、土壙11基、弥生時代～中世の柱穴を検出し、弥生土器、土師器、青磁、白磁、瓦器、石器等が出土した。

SB018住居跡は5.16m×3.34mで隅丸長方形を呈す。2本柱と考えられ、北側及び南側にベッド状遺構をもつ。埋土より弥生時代後期の土器（甕、器台、支脚）、砥石が出土した。SB019住居跡は4.48m×3.32mで隅丸長方形を呈す。4本柱と考えられ、弥生土器（甕、壺、高杯・器台、支脚、鉢）が投げこまれた状態で出土した。SB020住居跡は6.54m×5.06mで長方形を呈す。2本柱と考えられ、土師器（高杯、器台、鉢等）が出土した。SB025掘立柱建物跡は1間×2間で、梁行2.75m、桁行4.22mである。埋土中から弥生土器片、石包丁片が出土した。出土土器等からSB018は弥生時代後期後半でも新しい時期、SB019は弥生時代後期前葉、SB020は古墳時代前期、SB025は弥生時代後半と考えられる。

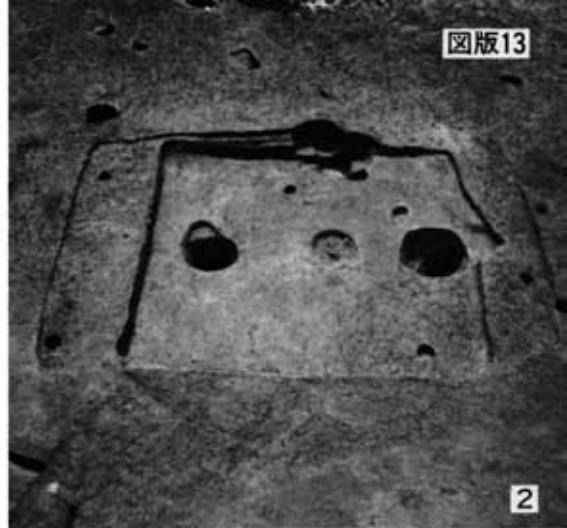
織島西分B遺跡は、ほとんどが弥生時代の遺構で占められていた。I区において検出されたSD001溝跡については、これに伴う何らかの遺構が北側宅地下に存在すると考えられる。II区において検出された竪穴住居跡、掘立柱建物跡は、弥生時代後期～古墳時代前期のもので、この時期の集落を知る上で良好な資料となる。



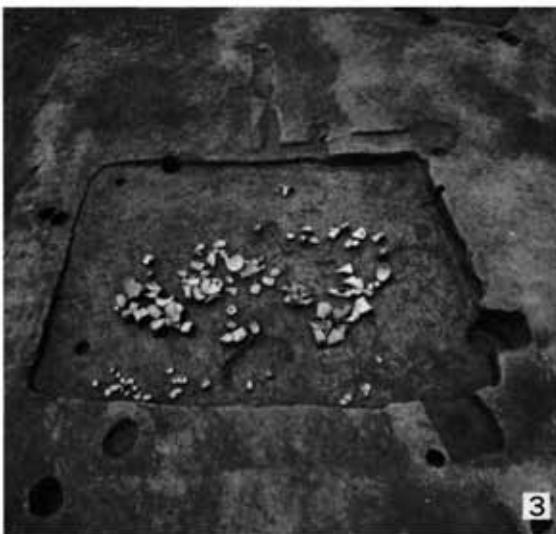
織島西分B遺跡周辺地形図 (S = 1/25,000)



1



2



3



4



5



6

1. 織島西分B遺跡全景(南東から)
2. SB 018 住居跡(西から)
3. SB 019 住居跡(南東から)

4. SB 025 挖立柱建物跡
5. SD 001 溝跡(西から)
6. SB 020 住居跡内土器出土状況(東から)

佐賀南部地区

10. 上滝遺跡群 後田遺跡 (URD)
大鹿遺跡 (OOS)
森崎遺跡 (MRZ)
林副遺跡 (HYZ)

遺跡所在地

武雄市朝日町大字甘久

及び同市橋町大字芦原

調査主体者

武雄市教育委員会

調査期間

昭和57年5月~12月

調査面積

750m²



上滝遺跡群周辺地形図 (S = 1/25,000)

遺跡の概要

今回調査した上滝遺跡群は、朝日町の東南に位置し、標高約5mの水田地帯に後田・大鹿・森崎の各遺跡と、橋町の北方で、六角川左岸に位置する林副遺跡がある。上述3遺跡の周辺には、細形銅剣を出土した北上滝遺跡が西北にあり、北には巴形銅器などを出土した東宮裾遺跡、東には銅鏡などを出土した枕島山遺跡がある。調査は各遺跡とも水路部分のみをその対象とした。

A. 後田遺跡

後田遺跡は水田地帯に独立した南北約200m標高約13mの丘陵であり、調査はこの丘陵の西南縁辺を幅4.5m、長さ36mの規模で実施した。調査地区的土層は耕作土の下に約0.3mの暗黒灰色の粘質土層があり、遺物包含層となっている。地山は灰白色粘質土である。

検出した遺構は井戸跡1基と土壙2基である。井戸跡は径0.6mの円形直下型を呈し、深さ約0.5mを測る。埋土は黒色土を主体とし、暗褐色土が少量混入する。床面は灰色粘土であり、井戸として利用されるには至らなかったものと考えられる。土壙はともに同形同規模のものであり、円形を呈し、埋土は黄褐色土と黒灰色土の混入土である。遺物の出土は包含層からのものが多く、各遺構からはほとんど出土しなかった。遺物包含層から出土したものには弥生時代の土器や石包丁、黒曜石製鐵、その他、歴史時代の輸入白磁碗・青磁碗などがある。

B. 大鹿遺跡

大鹿遺跡は後田遺跡と森崎遺跡の中間に位置し、確認調査の段階では暗灰色の円形遺構が検出された。本調査に至って重機類で掘り下げたが、不定円形の暗灰色土が確認された。周辺の地山の色は灰白色粘質土であったが不定円形の遺構から遺物は何も出土しなかった。

C. 森崎遺跡

森崎遺跡には猪熊山から派生した丘陵が南に延び水田に接したその水田に独立した東西約200m、標高約18mの丘陵である。調査は丘陵の東南縁辺で実施し、また、東北縁辺では工事の際に遺物の採集を実施した。調査区の土層は後田遺跡と同様に、黒灰色粘質土が0.2~0.3mの厚さで堆積しており、遺物包含層となっている。検出した遺構は井戸跡1基のみである。平面は径2.2~2.4mの不整円形を呈し、深さ1.0~1.4mを測る。

出土した遺物は井戸跡のものと包含層からのものとがある。井戸跡出土のものには壺・甕・鉢・高杯・凹石などがあり、土器は弥生時代後期後半から古墳時代初頭頃のものと考えられる。また、遺物包含層からのものには土師器、須恵器、瓦器などの土器類や石包丁や石鎌、滑石製鍋などの石器類が出土している。特に土師器の中で注意をひくものとして、幾内の布留形式の甕が出土している。

これらの出土遺物により、本遺跡の時期は弥生時代後期から古墳時代にかけてのものが主体を占めるものと考えられる。

D. 林副遺跡

林副遺跡は杵島山の西北麓を南北に流れる六角川の左岸にあり、標高4~5mの低湿水田地帯に位置する。杵島山西麓には数多くの古墳があり、また遺跡の北には板橋遺跡、南には庄ノ前遺跡などがある。調査は小川をはさんで、東側をA地区、西側をB地区として実施した。

A地区では検出した遺構は性格不明遺構のみである。平面形は調査が水路敷のみの調査の為不明であるが、深さは地表下約2mに及ぶ。土器溜り的遺構と考えられるが、包含層の可能性もある。B地区で検出した遺構は、溝跡1条、土壙1基、柱穴などである。溝は幅約0.5m、深さ約0.1mのものが西南—東北に走る小規模なものである。土壙は長軸約1.5mの不整楕円形を呈する小規模なものである。柱穴は主に円形を呈し、径0.15~0.7mを測る。

B地区からの遺物の出土はほとんどなく、遺物はA地区の性格不明遺跡からのものがほとんどである。須恵器・土師器・黒色土器などが出土している。なかでも土師器杯の底部外面に「束」(あるいは「東」と書かれた墨書土器が1点発見されていることは特筆すべきことである。時期的には平安時代前半頃と考えられる。

杵島郡には郡衙があり、その推定地として武雄市橋町鳴瀬、糸迦寺、朝日町黒尾、白石町馬洗、北方町北方、江北町佐留志などがあげられているが、本遺跡で墨書土器が発見されたことにより、本遺跡に近い鳴瀬説や糸迦寺説に注意をひく必要性が生じてきたと考えられる。ただ、1点の墨書土器で郡衙の所在地や駅の所在地を云々するのは問題があるとは考えるが、杵島郡内では初めて出土と考えられるため、可能性を強調するものである。



1

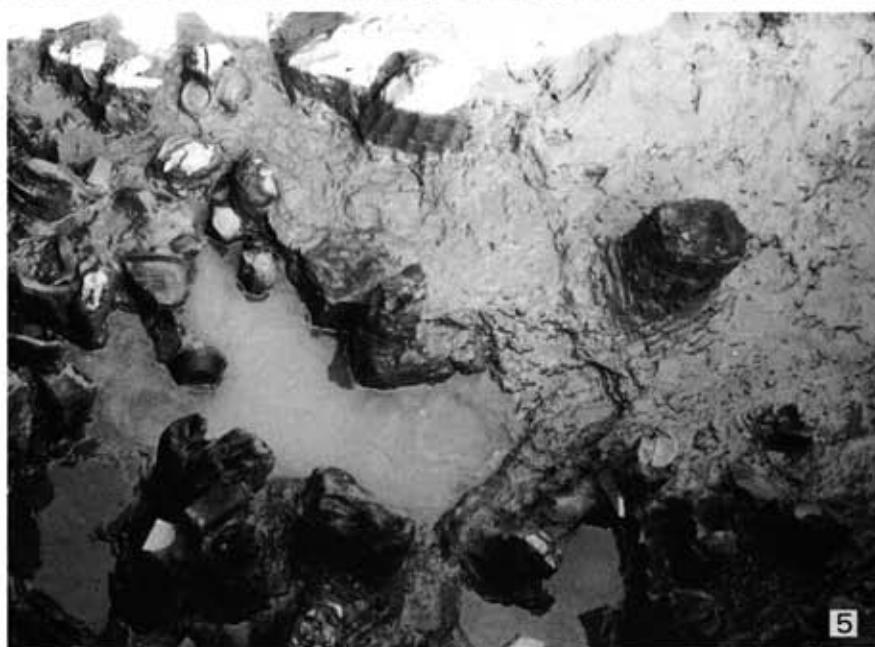


2



1. 後田遺跡全景(北から)
2. 森崎遺跡全景
3. 林副遺跡B地点

3



4. 森崎遺跡 1号井戸跡
5. 林副遺跡 A 地点遺物出土状況
6. 林副遺跡出土墨書き土器

11. 馬洗神辺遺跡（略号：MOK）

遺跡の所在地

佐賀県杵島郡白石町大字馬洗字神辺

調査主体者

白石町教育委員会、佐賀県教育委員会

調査期間

昭和57年7月～10月

調査面積

2,100m²

遺跡の概要

馬洗神辺遺跡は白石平野の北西部にあり、六角川が国鉄大町駅付近で北側へ屈曲する地点の南側約1.5kmに位置している。当遺跡の東側には馬田遺跡、今泉遺跡（古代～中世）があり、現在の集落付近を中心とした遺跡が点在している。調査対象地区は県道福富・武雄線の南側にあり、A区（西側）とB区（東側）に分かれる。調査地点は標高2.3～3.1m上の畑（削平部分）及び水田（掘削部分）で、遺構は2～2.5m上に検出され、出土遺物等から鎌倉時代～江戸時代の遺跡と考えられる。

A地区において検出した遺構は鎌倉時代～江戸時代の土壙12基、溝跡3条、木棺墓6基、柱穴約550個である。土壙は円形、楕円形、長方形と多様で性格は明確にし難いが、ゴミ捨て場的なものもみられる。SK008土壙からは畿内系の瓦器碗が出土している。木棺墓はSP015、SP018の棺内から寛永通宝・珠数（木・ガラス製）、SP001、SP018（棺外）からは土師器（杯）が出土した。その他、出土遺物として青磁、白磁、染付、土師器、銅錢、青銅製柄類、ガラス製品、骨製品、石鍋などがある。

B地区において検出した遺構は鎌倉時代～江戸時代の土壙5基、溝跡6条、井戸跡1基、木棺墓2基、掘立柱建物跡1棟、柱穴約280個である。井戸は枠として桶を利用したもので二段重ねて使用されていた。また、井戸の底には大甕の破片が敷きつめられていた。木棺墓は、SP001棺内から銅錢（元祐通宝と読めるものがある）、SP001の棺外から土師器（杯）が出土した。その他、出土遺物として青磁、白磁、染付、土師器、銅錢、石鍋などがある。

今回の調査で注目されるのは、畿内系瓦器碗の出土と、木棺墓における銅錢、土師器の出土があげられる。前者においては在地の土器類との時期的な併行関係、後者においては佐賀平野における土師器編年に好資料を提供しよう。その他、取り上げるものとして輸入陶磁器がある。出土した青磁は主に龍泉窯系、同安窯系のもので、体部外面に蓮弁、櫛描文があり、内面には草花文や「金玉滿堂」のスタンプを押したものがみられる。白磁は口縁が玉縁状になるものと口ハゲになるものが主である。これらの特徴から、出土した青・白磁は主に13～14世紀代のものと考えられる。



馬洗神辺遺跡周辺地形図 (S = 1/25,000)



1. 馬洗神辺遺跡全景
2. SP002木棺墓
3. SK006土壤
4. SP015木棺墓(南西から)
5. SP001土壤墓(南西から)

はんし だばる
12. 本志田原遺跡（略号：HCH）
しらくば
白久保遺跡（略号：SIR）

遺跡所在地

藤津郡塩田町本志田原

調査主体者

塩田町教育委員会

調査期間

昭和57年4月～9月

調査面積

2,000m²

遺跡の概要

本志田原・白久保遺跡は肥前風土記にでてくる杵島山の西に位置し、県道27号線武雄・塩田間のほぼ中間東側、標高14m～17mの水田地帯に所在する。

本志田原遺跡

調査地区は1区と2区に分かれ、1区からは柱穴群、2区からは掘立柱建物跡2棟、溝跡9条土壙3基が検出された。

1区の柱穴群は径0.1m～0.3mを測るもので地区全域から検出された。しかし建物跡としてどれがまとまるか不明である。これらの柱穴から近世陶磁器片が少量検出された。

2区の掘立柱建物跡(SB012)は調査区の関係で完掘できなかったが、2間×3間以上の規模を推定される東西棟である。溝跡は9条あるなかで2条は地区内で終了するが、他は地区外へとづく、また、その規模は幅0.5m～1.3mで、深さ0.3m～0.8mとそれぞれ異っており、その性格は多様であると思われる。土壙のSK011は埋土中に木炭殻や石灰殻などが含まれていた。出土遺物は中世末から近世にかけての陶磁器類が少量確認され、その中に中国明代の青磁も含まれている。

白久保遺跡

調査地区全域から柱穴群が検出され、そのうち2間×2間の掘立柱建物跡1棟がまとまると思われるが、現在まで検討中である。遺物は、近世陶磁器類が少量出土している。



本志田原遺跡周辺地形図 (S = 1/25,000)



1. 本志田原遺跡全景
2. 本志田原遺跡2区(西から)
3. 本志田原遺跡2区(東から)
4. 本志田原遺跡3区(東から)

13. 大黒町遺跡（略号：DKC）

遺跡所在地

藤津郡塩田町大字五町田

調査主体者

塩田町教育委員会

調査期間

昭和57年7月～9月

調査面積

約600m²



大黒町遺跡周辺地形図 (S=1/25,000)

遺跡の概要

遺跡は塩田町のほぼ中央部、塩田川の南約400m、標高約4～5mの水田部に立地している。付近には日吉坊跡（寺院）、中世の館跡である原町遺跡などの遺跡が存在する。

昭和56年度の確認調査で遺跡の存在が確認された。今回、水路予定地の約600m²を調査した。

検出された遺構は奈良時代から平安時代にかけてのもので、掘立柱建物跡2棟、土壙3基・溝状遺構・柱穴がある。掘立柱建物跡は2間×1間、1間×1間のものがあり、柱穴内には幅20～40cmの柱根が残っていた。

土壙は平面形が不整形で、内部から完形の須恵器が出土した。

溝状遺構は幅5～7m、深さ1m以上で、溝内から多量の須恵器・土師器・墨書き土器・木製品が出土した。

出土遺物は、須恵器・土師器（杯・皿・椀・盤）・円面硯・漆器（椀）・木製品で、そのうち、須恵器の約90点には墨書きがみられた。墨書きには「大評」「養」「諸男」「人足」「馬」「平」「井」等があり、そのうち「養」の文字が最も多く約30点以上みられた。また須恵器杯や蓋には、硯に転用したと考えられるものもみられる。

大黒町遺跡で注目されることは、多量の墨書き土器の出土である。90点もの墨書き土器の出土は本県では初めてであり、また、九州でも太宰府に次ぐ量である。これらの墨書き土器は8世紀前半～中頃に位置づけられる。墨書き土器は主に官衙跡・寺院跡から出土しており、今回出土した墨書き土器の中に「大評」「人足」「馬」の文字があることから、当時の藤津郡の郡衙跡か駅跡である可能性が強い。



1



3



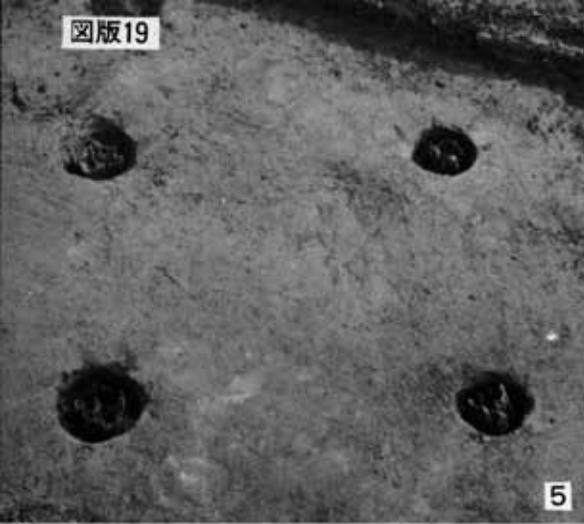
2



4

1. 大黒町遺跡 1 区西側
2. 1 区西溝状遺構

3. 2 区東側
4. 2 区西側(西から)



5



6



7



8



9



10

5. 2区SB002建物跡

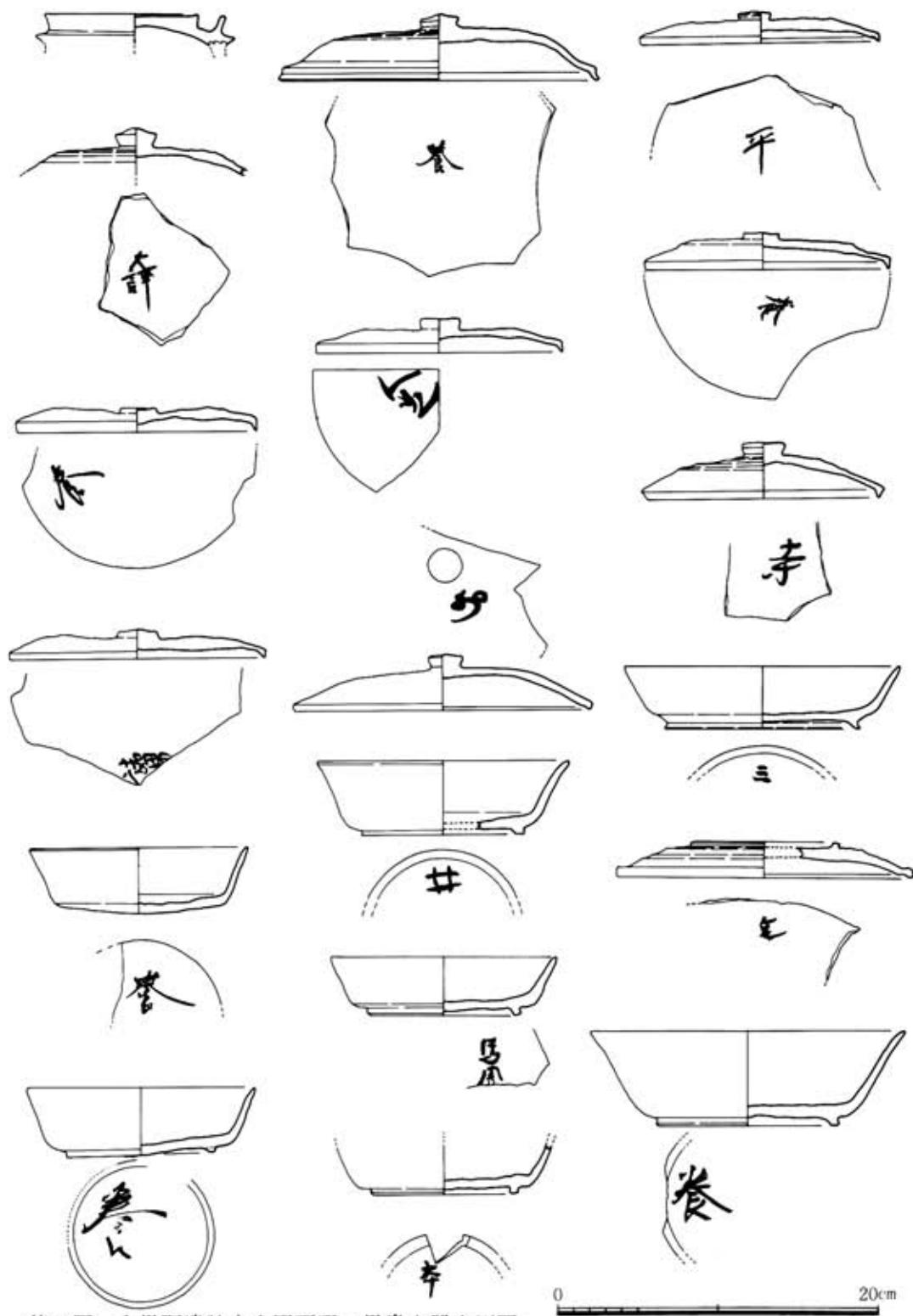
6. 3区SB003建物跡

7. 1区SK001土壤(北から)

8. 出土墨書土器

9. 出土墨書土器

10. 出土墨書土器



第36図 大黒町遺跡出土円面硯・墨書土器実測図

14. 楠木原遺跡（略号：KKB）

遺跡所在地

西松浦郡西有田町大字曲川乙

調査主体者

西有田町教育委員会

調査期間

昭和57年10月～12月

調査面積

1,700m²

遺跡の概要

楠木原遺跡は国見山系の南斜面の標高90m～95mに位置し、現在は水田地帯である。検出された遺構は1区から土壙2基・溝跡1条、2区から柱穴43ヶ所である。

SK001土壙の平面は楕円形で長辺1.6m、短辺0.9m、深さ0.5mを測る。遺物は近世の陶磁器類が多量に捨てられた状態で出土した。

SK002土壙の平面は円形で、径1.2m、深さ0.3mを測る。遺物は近世陶磁器類が少量出土した。

SD003溝跡は幅0.8mで、調査地区中央から南へ流れている。少量の近世陶磁器類が出土した。2区の柱根は掘方0.4mほどの中に、径0.2mのものが垂直の状態で検出された。その材質は杉と思われる。遺物は小穴群から少量の近世陶磁器類片が少量出土し、柱根の掘方からは寛永通宝が1点出土した。なお地区周辺からは水田の床土層から黒曜石片少量と石鍋片などが採集された。

当遺跡は確認調査時に縄文時代の遺構が予想されたが、過去の水田造成時に削平されたのか、それは検出されなかった。2区は調査区が幅約2mであったため、柱穴群が建物としてどれがまとまるか定ではなく、また、規模も不明である。



楠木原遺跡地形図(1/25,000)



1. 楠ノ木原遺跡(西から)

2. 楠木原遺跡調査区全區2区(西から)

3. S K 0 0 1 土器(北から)

4. 楠木原遺跡S K 0 0 1 土器出土磁器皿

15. 坂ノ本遺跡（略号：SKM）

遺跡の所在地

西松浦郡西有田町大字山谷

調査主体者

西有田町教育委員会

調査期間

昭和57年12月～昭和58年3月

調査面積

1,500m²

遺跡の概要

遺跡は国見山系の南斜面、標高66m～72mの水田地帯に立地している。東南約2kmには黒曜石の原産地腰岳が遠望され、西には縄文時代の貯蔵穴など検出された坂ノ下遺跡が所在する。

調査は遺跡の中心部が盛土で保存されるため、主に遺跡周辺を10区に分けて行った。その結果4区と5区から縄文時代の土壙6基が検出された。遺物は各調査区から縄文土器片少量・黒曜石製の石器・剝片多量と少量のサヌカイト製の石器が出土した。

SK001土壙は4区の中央にあり、平面は楕円形で長辺2.16m、短辺1m、深さ0.4m。SK002土壙は4区中央南にあり、平面は楕円形で長辺2.20m、短辺1.3m、深さ0.5m。SK004土壙は5区の中央にあり、平面は楕円形で、長辺1.70m、短辺0.90m、深さ0.4mを測る。このように土壙の平面は楕円形が主体であるが、SK003土壙は方形である。土壙の性格は不明である。

遺物は少量の縄文土器片がある中で、押型文土器がSK001土壙から出土している。石器は若干のサヌカイト製をのぞき、大部分は黒曜石製である。石器の種類は、石鎌、尖頭器・石錐・つまみ型石器・サイドブレイド・刀器、石匙、搔器、打製石斧、磨石、石核などがある。また剝片はコンテナ約50箱ほど出土している。

以上、当遺跡は調査の関係で遺構は少なかったために、その性格は不明であるが、多量の石器、剝片の出土と、黒曜石の原産地に近いことからして、縄文時代の石器製作所として考えられる。



坂ノ本遺跡周辺地形図（1/25,000）



1. 坂ノ本遺跡遠景

2. 坂ノ本遺跡調査区全景2・3区北西

3. 坂ノ本遺跡調査区全景1区北東

かわよりよしわら
22. 川寄吉原遺跡（略号：KYY）

遺跡の所在地

神埼郡取崎町大字竹

調査主体者

佐賀県教育委員会

調査期間

昭和57年6月～9月

調査面積

800m²



川寄吉原遺跡周辺地形図 (S = 1/25,000)

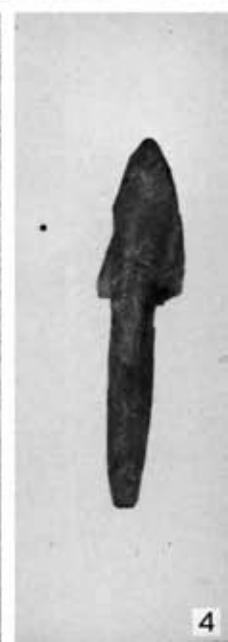
遺跡の概要

遺跡は神埼町の北方、城原川水系が形成した標高7～8mの扇状地上に立地している。今回調査した地区の北側（I区）は昭和55年度に、農業基盤整備事業に伴い発掘調査が行なわれている。その際、弥生時代後期の掘立柱建物跡・土壙が検出され、鐸型土製品・多数の弥生後期土器・木器が出土している。

今回の調査では、遺構は調査区の東側に集中しており、西側は低く湿地帯になっている。検出した遺構は、土壙・柱穴・杭列で、みな弥生時代後期のものである。土壙は6基ある。平面形は不整橢円形で、長さ1.7～1.8m、幅1.2～1.3m、深さ0.4～0.5m。このうちSK102土壙は、内部から多量の土器が投げこまれた状態で出土しており、祭祀に関する土壙と考えられる。井戸跡は1基ある。単掘りのもので、平面形は円形で、長さ1.75m、深さ0.5m。柱穴は、径0.15～0.4m、深さ0.2～0.4mで、柱根の残っているものもみられた。狭い範囲の調査のため柱穴の並びは明らかにできなかった。杭列は、調査区西側の低い部分に集中しており、周辺から多量の木片・植物遺体とともに木製品・銅鏡が出土した。この杭列のみられる部分は当時の湿地帯と考えられ、水田跡の可能性がある。

遺物は、土器・木製品・銅鏡が出土している。土器は、壺・甕・杯・器台の器種があり、後期前半に位置づけられる。木製品には、大足・棒・杭等がみられる。銅鏡は、有茎のもので、全長4cm、身幅0.4cm、身の厚さ0.4cm、重さ4.3g。

今回調査を行なった地区は、遺跡の南端に近い部分で、遺構の密集する小高い部分と、その西側の湿地帯である。出土した土器と木製品は当時の生活を知る上で良好な資料となる。また銅鏡の出土は、詫田貝塚、三津永田遺跡について本県では3例目であり、注目される。



1. 川寄吉原遺跡調査区全景(東から)
2. 調査区中央部杭列
3. SK 102 土壤
4. 中央部包含層出土銅鏃

23. のだ 野田遺跡 (略号: NOD)

遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字竹

調査主体者

佐賀県教育委員会

調査期間

昭和57年4月～6月

調査面積

1,200m²



野田遺跡周辺地形図 (S = 1/25,000)

遺跡の概要

遺跡は神埼町の北方、日の隈山南側に展開する城原川水系が形成した標高8～9mの扇状地上に立地している。昭和56年度に調査を行なった地区の東側を今年度、ひきつづき調査した。

検出した遺構は、土壙10基、溝跡5条、柱穴群である。土壙は弥生時代中期のもので、内部から壺・甕が出土した。溝跡は、ほぼ東西に走っており、出土遺物がないため時期は不明である。出土した遺物は、弥生時代中期の壺・甕・高杯、古墳時代の須恵器などである。

今回の調査で検出した遺構・遺物の数は少く、遺跡の東端部にあたると考えられる。

図版23



1



2

1. 野田遺跡全景(東から)

2. SK001 土壙

24. 尾崎土生遺跡（略号：OSH）

遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字竹

調査主体者

佐賀県教育委員会

調査期間

昭和58年1月～3月

調査面積

遺跡の概要

遺跡は神埼町の北方、日の隈山南側の標高6～8mの扇状地上に立地している。農業基盤整備事業に伴い、周辺（1区～10区）を昭和56年度に発掘調査しており、弥生時代から江戸時代にかけての広範囲な遺跡が確認されていた。またその際、全国でも類を見ない形態の木製把頭飾が出土している。

今回の調査（11区）では、古墳時代・平安時代～鎌倉時代の遺構が検出された。古墳時代の遺構は、掘立柱建物跡6棟、土壙7基、井戸跡3基、溝跡1条、柱穴で、5世紀～6世紀代のものである。掘立柱建物跡は1間×1間、2間×2間、3間×4間の規模のものがあり、このうち2間×2間のもの（SB022）は、総柱建物跡であり倉庫と考えられる。土壙（SK013-018）は平面形が橢円形・不整形のものがあり、多量の土師器・須恵器が出土した。井戸跡（SE012）は、平面形が円形の単掘りのもので、土師器が出土した。溝跡（SD003）は、幅0.55～0.8m、深さ0.05～0.15で、ほぼ南北に走る。平安時代～鎌倉時代の遺構は、土壙墓1基、井戸跡2基、溝跡3条である。土壙墓（SP020）は長さ1.23m・幅0.58m・深さ0.15mで、黒色土器、瓦器を副葬していた。井戸跡は平面がほぼ円形の単掘りのもので、土師器が出土した。溝跡は幅0.7～1.3m、深さ0.2～0.3mでほぼ南北に走る。

出土した遺物は、古墳時代の土師器小型丸底壺・高杯・甕、須恵器杯、平安時代～鎌倉時代の黒色土器椀・瓦器椀・土師器小皿・杯・土鍋等である。

今回調査を行なった地区（11区）は、昭和56年度の調査で確認されていた広範囲な遺跡のはば中央部にあたる。狭い範囲の調査であったが、掘立柱建物跡6棟をはじめとする多数の遺構・遺物が検出され、昭和56年度の発掘調査の結果と合わせて、この地域の古代から中世にかけて集落の変遷を知る上で貴重な資料となる。



尾崎土生遺跡周辺地形図（S = 1/25,000）



1. 尾崎土生遺跡11区全景(西から)
2. S B 0 2 2 堀立柱建物跡

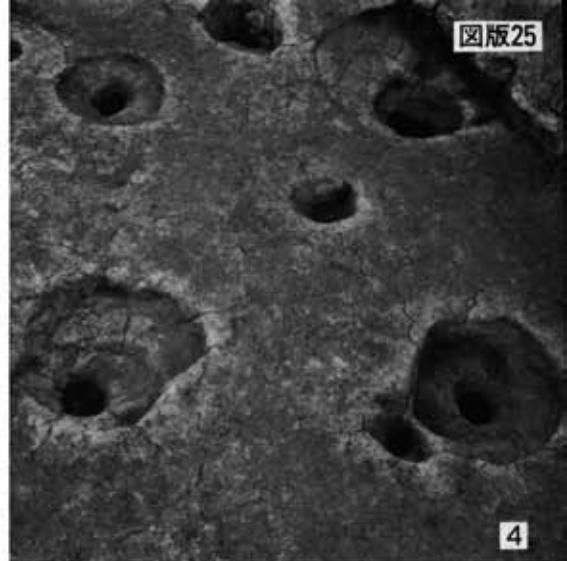
1



2



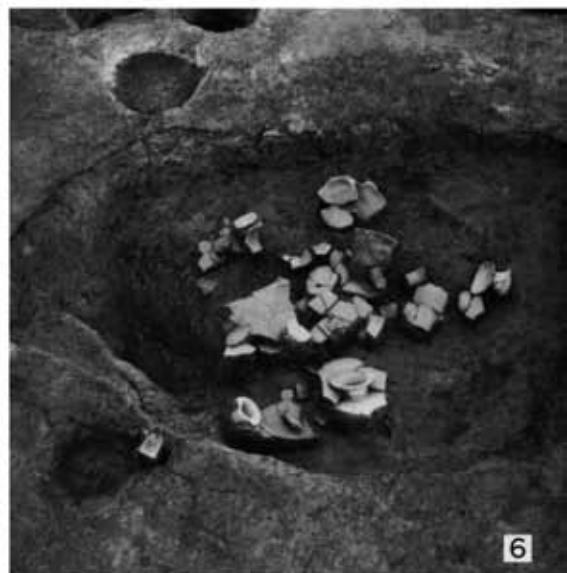
3



4



5



6



7



8

3. SB 023 挖立柱建物跡

4. SB 021 挖立柱建物跡

5. SD 001 溝跡(南から)

6. SK 018 土壙

7. SE 014 井戸跡

8. SE 012 井戸跡

V. 総 括

昭和57年度に実施した農業基盤整備事業に係る文化財調査のうち確認調査は佐賀東部地区で鳥栖市・北茂安町・三根町・神埼町・三田川町・千代田町・東脊振村の10地区、佐賀西部地区で佐賀市・諸富町・大和町・多久市の6地区、佐賀南部地区で武雄市・北方町・白石町・有明町・塩田町・嬉野町の15地区、佐賀北部地区で相知町・西有田町・富士町の5地区、佐賀上場地区で唐津市・北波多村・肥前町の3地区である。また佐賀南部地区では、伊万里市・塩田町の5地区について踏査を行なった。発掘調査は、佐賀東部地区6遺跡、佐賀西部地区3遺跡、佐賀南部地区4遺跡、佐賀北部地区2遺跡、佐賀上場地区6遺跡について実施した。その他、筑後川下流用水事業に係る文化財調査として佐賀市・千代田町の2地区の確認調査および、神埼町の3遺跡の発掘調査を実施した。以下確認調査について各地区ごとに、発掘調査について各時代ごとに簡単にまとめてみる。

文化財確認調査

佐賀東部地区 三根町三根東（天建寺）地区、千代田町姉・下板地区、東脊振村畠外地区から遺跡が確認された。三根東（天建寺）地区は、弥生時代・中世の井戸跡・柱穴を検出し、集落跡と考えられる。姉・下板地区は弥生時代～中世の集落跡を検出した。特に姉地区は広大な面積で、遺構の密度も高く、詫田西分貝塚とともに、この地域最大級の遺跡といえる。畠外地区は弥生時代～中世の集落の存在が考えられる。また神埼町本堀地区から検出された溝状の落込みは、条里に関係する溝跡の可能性があり、今後、群しい検討が必要である。

佐賀西部地区 諸富町諸富地区、大和町川上南部第1地区から遺跡が確認された。諸富地区は、古墳時代～近世の土壙・井戸跡・溝跡・柱穴を検出し、集落跡と考えられる。川上南部第1地区からは中世の遺構が検出されている。

佐賀南部地区 武雄市川登地区、北方町大崎地区、有明町牛間田地区から遺跡が確認された。川登地区は、近世窯跡の物原と思われるものを検出し多数の陶器片が出土した。大崎地区は、弥生時代～中世の土壙・柱穴・遺物包含層を検出し、集落跡の存在が考えられる。またこの地区は、銅剣・巴型銅器を出土した東宮裾遺跡の北側にあたり注目される。牛間田地区は中世～近世の集落跡の存在が考えられる。

佐賀北部地区 相知町伊岐佐地区から遺跡が確認された。検出された遺構は、縄文時代～中世の溝跡・柱穴で、土器片・石器が出土した。西有田町の3地区からは遺構は検出されず、伊万里市の4地区は踏査の結果、遺跡の存在は考えられなかった。

佐賀上場地区 肥前町七ツ江地区で遺跡を確認した。検出された遺構は、縄文時代・弥生時代の土壙・柱穴で、集落跡の存在が考えられる。

その他 筑後川下流用水事業（佐賀東部導水路・大詫間幹線水路）に係るものとして、神埼町尾崎西分地区・千代田町姉地区を調査したが、遺跡は確認されなかった。

発掘調査

旧石器時代 川原田遺跡から遺物包含層が確認され、細石核・細石刃・ナイフ形石器等の多数の石器が出土した。

縄文時代 小平遺跡から早期の土壙を多数検出し、押型文土器が出土した。志波屋六本松遺跡からは早期の集石遺構と後期の竪穴住居跡が検出された。佐賀平野周辺で4軒もの住居跡が検出されたのは始めてのことであり、当時の集落構造を知る上で貴重な資料となり注目される。坂ノ本遺跡から出土した多量の黒曜石製石刃・石核・剝片は、鉛錠技法によるものが多く、当時の石器製作技法を知る好資料となる。

弥生時代 織島西分B遺跡から前期の溝跡、後期の住居跡が検出された。溝跡から出土した土器には、佐賀平野に少い如意形口縁の甕がかなりみられ興味深い。田手一本黒木遺跡・詫田西分貝塚からは主に中期の掘立柱建物跡・土壙・井戸跡を検出し、多量の土器や木製品が出土した。特に詫田西分貝塚は、井戸跡から最も古い可能性のある鐸型土製品や、鳥型木製品が、貝塚から多量の自然遺物が出土しており注目される。大曲遺跡群からは中期から後期にかけての住居跡、掘立柱建物跡・土壙・溝跡・甕棺墓・祭祀土壙を検出した。徳富権現堂遺跡からは後期の掘立柱建物跡が検出されており、佐賀平野部で最も南に位置する弥生時代遺跡といえる。川寄吉原遺跡からは、後期前半の土壙・柱穴・杭列が検出された。杭列付近から大足・銅鏡（有柄式）が出土している。銅鏡は本県では3例目の出土である。

古墳時代 日岸田遺跡・織島西分B遺跡から前期の竪穴住居跡が、志波屋六本松遺跡・尾崎土生遺跡から後期の竪穴住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡・溝跡を検出した。志波屋六本松遺跡では竪穴住居跡・掘立柱建物跡が溝により囲まれており当時の集落形態がわかり興味深い。

歴史時代 大黒町遺跡から、奈良時代の掘立柱建物跡・溝跡を検出し、溝跡から漆器椀・円面硯・多量の須恵器が出土した。須恵器のうち約90点には墨書きがみられ、特筆すべき遺跡である。墨書きには、「大評」「人足」「馬」等の文字があり、郡衙跡もしくは駅跡と考えられる。日岸田遺跡から検出された奈良時代の溝跡は、ほぼ東西に走っており条里に關係する遺構の可能性があり、今後の検討が必要である。上滝遺跡群（林副遺跡）からは、平安時代の掘立柱建物跡・井戸跡・土壙・溝跡を検出し、須恵器・土師器・黑色土器・墨書き土器が出土した。天建寺土居内遺跡・徳富権現堂遺跡からは奈良時代～室町時代の掘立柱建物跡・井戸跡・溝跡・瓦器・瓦器・陶磁器が出土した。特に徳富権現堂遺跡は鎌倉時代の方形に廻る溝と掘立柱建物跡および出土品から、館跡と考えられる。また出土した瓦器（椀）には奈良産のものがあり注目される。馬洗神辺遺跡からは室町時代後期～江戸時代前期の掘立柱建物跡・土壙墓・木棺墓を検出した。土壙墓・木棺墓の内部には、人骨が残っており、資料の少ないこの時期の人骨は人類学上、貴重な資料となる。また出土した土器のなかには、畿内系の瓦器（椀）がある。上平野B遺跡からは、江戸時代後期の土壙墓を検出した。

佐賀県文化財調査報告書第74集

佐賀県農業基盤整備事業
に係る文化財調査報告書2

発行 昭和59年3月30日
佐賀県教育委員会
佐賀市城内1丁目

印刷 株式会社副島印刷
佐賀市高木瀬町長瀬
☎ 31-6688

